



め組の喧嘩

新春第一週封切

原作脚色監督 冬島泰三

特別出演

光井柳南志廣永小
川上梅村京久
吟光靖
賀田柳太
章二
郎

飯塚敏子
林敏夫
阪東好太郎
高田浩吉
阪東好太郎
林長二

風味必ず御氣に召す

天ぶら御料理

季節向御料理

佛蘭西御料理

芝居情緒と食道樂

喜久屋食堂

道頓堀戎橋北詰

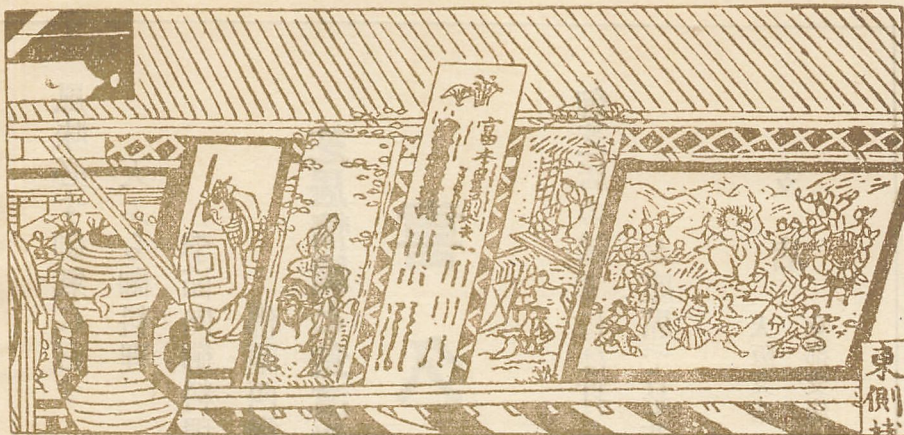
御芝居の歸りには打ち揃ふて

お座席では非御會食を！

支店

大阪支店 心齋橋筋八幡筋角
京都支店 北新地裏町
木屋町ドンブリ橋





◇道頓堀・第百十一輯・十二月號◇

★ 繪 口 ★

回大阪歌舞伎座・菊五郎白拍子花子(京鹿子娘道成寺)三津五郎の太郎冠者・菊五郎の次郎冠者(捧しぱり)馬泥坊・靈驗舞臺面
 回京都南座顔見世興行・左團次の高綱(佐々木高綱)梅玉の春日局お福の方・壽三郎の稻葉佐渡守(春日局)三升の竹拔五郎(押辰)猿之助の馬飼子之助(佐々木高綱)友右衛門の親權四郎・吉右衛門の船頭松右衛門實は樋口次郎兼光・時藏の女房およし・魁車のお筆(ひらかな盛衰記)幸四郎の高砂尉兵衛・猿之助の右馬之助(二人袴)梅玉のおたつ・魁車の条次・壽三郎の中村染之助(涙の四ッ橋)幸四郎の曾我五郎吉例曾我對面左團次の河内山宗俊(天衣紛上野初花)吉右衛門の熊谷次郎直實・時藏の玉纒姫(二谷嫩軍記)猿之助の研屋辰次(研辰の討たれ)回五郎劇(故郷の土・妻の戦術・假名本忠臣蔵)一番坂・各場面
 回角座(お人好しの仙女舞臺面)

★ 表 紙 長谷川小信氏 所有

顔見世と競演.....高安吸江(三)

「佐々木高綱」.....岡本綺堂(四)

研辰と私.....木村錦花(四)

大阪俳優よ奮闘せよ.....菱田正男(六)

顔見世雑感.....高谷伸(八)

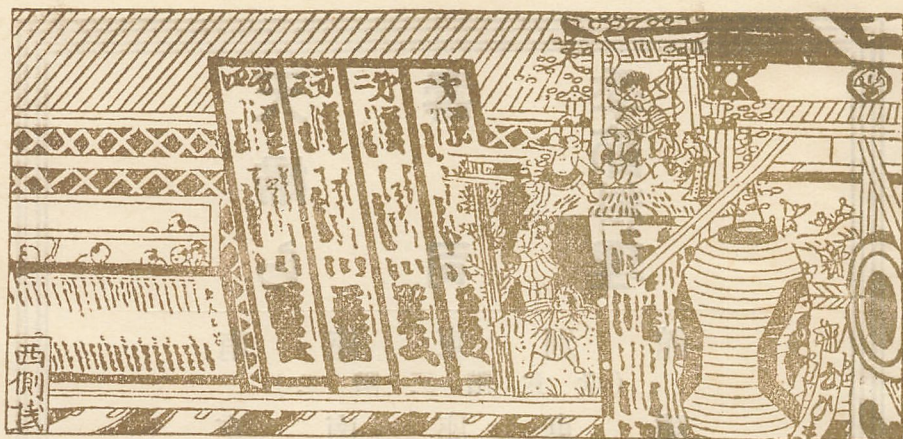
歌舞伎十八の「押辰」.....堂本寒星(一〇)

顔見世狂言解題.....世話恒鈍文(一二)

吉右衛門の二役.....姉小路孝(一五)

「上方の味」の芝居に就て.....鳥江鏐也(一四)

涙の四ッ橋



誌 舞
上 合

ひらかな盛衰記……………南座 晝の部 (一〇)
雲衣紛上野初花……………南座 夜の部 (三)
研辰の討たれ……………南座 夜の部 (四)

菊五郎と俳優學校
生徒等に望む

(一七)

ハ 寄
ガ
キ 書

新妻 菊、長谷川 伸、永田龍雄、高澤初風
本山萩舟、水谷幻花、高安月郊、尾崎久彌
金子洋文、中山楠雄

菊五郎 來る……………山口 廣一 (一〇)

私の女房役と
劇團の變轉 (3)……………都築文男 (三)

顔見世から顔見世まで……………西尾福三郎 (三)
劇壇漫畫一年史……………妹脊平三、富田英三、秋田収一、大槻たもつ (三)

おこがましい……………中村吉右衛門 (四)

台詞と演技……………中村魁車 (四)

對面のことども……………松本幸四郎 (四)

青年歌舞伎斷想……………大橋孝一郎 (四)

(十一月
の南座)

カ ッ ト、
編 輯 後 記……………村 上 虹 二 勝 (四)

季節料理

壽司

天婦ら

南座東別館
(二階三階食堂)
京南座東隣

矢倉鮓 志波家

電 祇 一五五五番

お茶の菓子に
おつかひ物に

何は兎もあれ先づ召しませ

菊壽糖

阿波三盆白製

東山

大島黒糖製

京菓子司

京都四條通祇園町北側

鍵善良房

電話祇園 〇 二二八八 一七番

香りのよい 喫茶

あたたかい お飲みもの

おいしい 果実料理

軽いお食事 サンドウ井ツチ

◇ 季節果実 ◇
◇ 各種洋酒 ◇



京都南座内

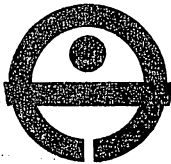
新設

フルーツパーラー

かぶき

(二階東休憩所内)

四季を通じて御贈答に便利重寶!



丹神の商品券



50 錢より 御好通り調進

御急ぎの節は下記へ御電話下さい

◇ 御進物には—

〃代金引換御届制度〃を御利用下さい。

丹神

百貨店・電代表 西陣 6280

マート・電本局 6502・6504

五條店・電 祇園 3084



天下之銘酒

シ
ラ

ユ
キ

白雪

贈るも

受けるも

笑顔に笑顔

灘・丹伊 津根

小西酒造株式會社



大阪歌舞伎座十二月公演

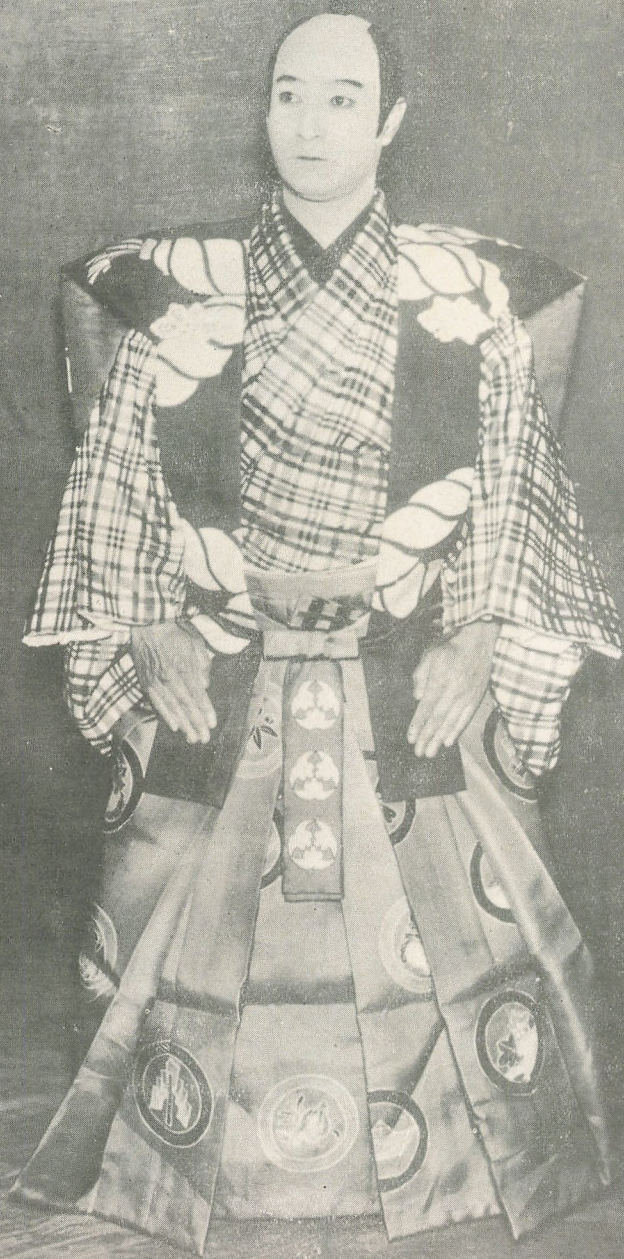
「京鹿子娘道成寺」

菊五郎の白拍子花子

大坂歌舞伎座二十月上演

一 棒 し ば り

三津五郎の太郎冠者

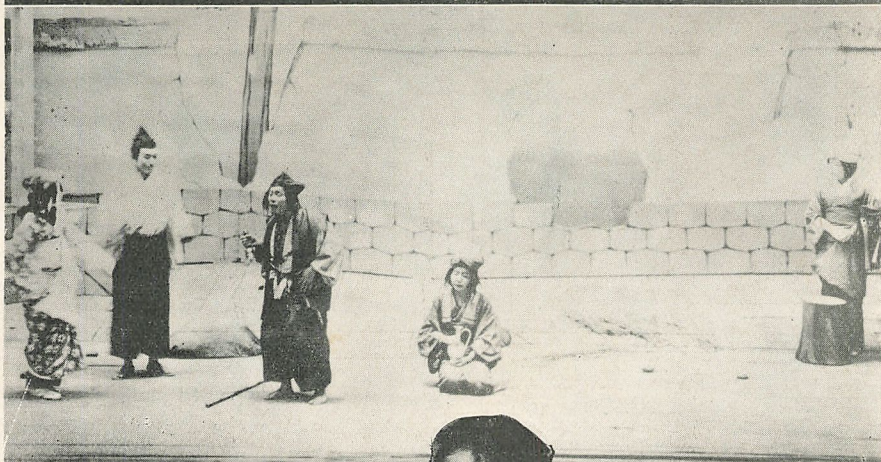
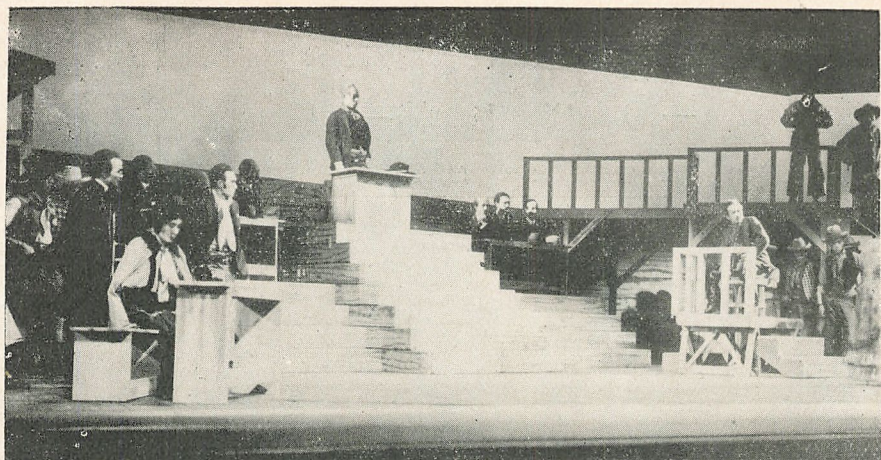


大坂歌舞伎座二十月上演

一 棒 し ば り

菊五郎の次郎冠者





大阪歌舞伎座十二月公演

上 は ……「馬盗坊」の舞臺面

中と下は ……「靈 驗」の一場面

割烹

南座場内に

食堂部が御座います

御用命之程御願申ます



ル下條四垣石西都京

番 六 四 八 一 下 電
七 四 二 七

いんさつは • めいぶんどう.....いんさつは • めいぶんどう.....いんさつは •

いんさつは • めいぶんどう.....いんさつは • めいぶんどう.....いんさつは • めいぶんどう.....

めいぶんどう.....いんさつは • めいぶんどう.....いんさつは • めいぶんどう.....

あらゆる・いんさつ

せひ！めいぶんどうへ...

御下命を



明文堂印刷所

京都市木屋町松原南

電話 下 ⑤ 4 8 5 番

.....いんさつは • めいぶんどう.....いんさつは • めいぶんどう.....

一リトンサ
一キ入井ウ

特約店

辻長商店

京都市木屋町四條上ル
電本局 ②二五五九番



綺羅星!!
あまた麗酒を打從へて
黄金造りの
将凡に直る
洋酒國の新帝
サントリーウ井スキー

熟圓味香 藏貯年七

支那料理



ナワテ四條上電祇園1468

新京極四條上電本5779

柴八橋本家

江口夷堂

京西六條・電下二九五番

本家八橋

比叡山一隅に元王大師（註）時
目た印家（澤田）紫衣（先翁）
別と一表八橋（注）形（注）
信（注）
白（注）
家（注）
何（注）
缺（注）
展（注）
光（注）
飲（注）
一（注）
五（注）
月（注）
世（注）



世に名を傳へし



パームオイル、日本での元祖

松竹石鹸

美肌こまやかに

かをりを残す高級石鹸

日本女性の

お肌の美化作用に

最も理想的な

パームオイルを

原料として居ります

本舗

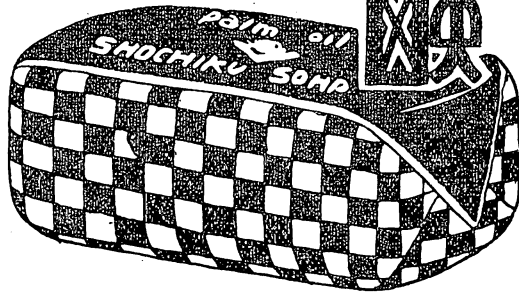
奥山石鹸工場

大阪・東京

京都出張所

京都竹屋町東洞院東

電上一五二二番





綱高木々佐の次團左川市・演上部の晝 行興世見顔歳亥座南



顔見世畫の狂言

「春日局」

舞臺の豪華

衣裳の絢爛

とも贅を盡した大詰

梅玉の…春日局



史劇にある堅苦しきはなくそこに溢るゝ
人情味は見る人をして泣かさずにはおは
らぬといふ中井泰孝氏の快心作

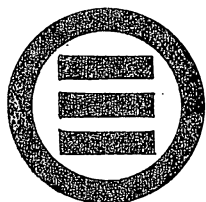
春 日 局

上は…梅 玉のお福の方
下は…壽三郎の稻葉佐渡守



は杖竹青の餘丈るたつ持に裝扮の外天想奇のこ駄足高・笠簍・刀太本三・らてご大・卷腹・當脛手籠
 ……るす演再に處此てつとし寫らか繪居芝き古が升三まい「辰押」の案創郎十團世二

ハカマ
服 地
女学校制服

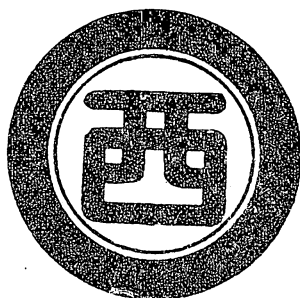


マルサニ

四條大丸前 電本1676番

淡

口



優

等

丸西醬油株式會社釀

油 醬 シ ニ ル マ

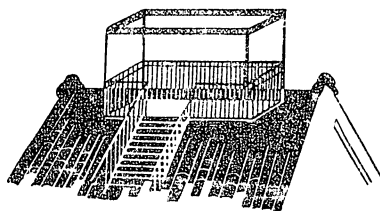
中賣特

待招御 世見顔座南

待招御一テエラバ寶東

詰樽 大小

詰樽 小



(上參員店拘不近遠第次報一御)

入南條四手繩都京

店物金コヤ

部 工 鐵

番六六二(6)園祇電

特許 テツの物干

サビナイ

▲木製より安くて丈夫です
▲絶對サビナイ
▲組立式に付轉宅自由

グロタカ進呈

ク
リ
ー
ム
配
合



お
顔
の
ア
し
な
い

は
れ
や
か
石
鱈

黒 田 合 名 社 會

京 都 市 東 山 區 本 町 一 丁 目

幕間の御食事と喫茶は

西館二、三階

地階に麵類部



菊水食堂へ



お歸りにはごうぞ

南座前本店で

おくつろぎ下さい

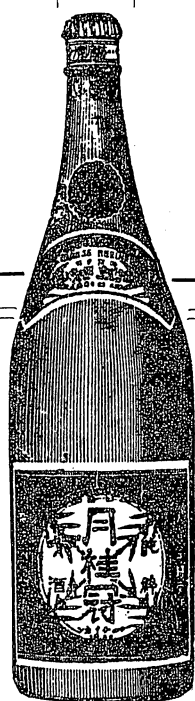


清酒
月桂冠

皆様の御酒
この芳醇

品質第一

絶対に
防腐剤を含まず



宮内省御用達

大倉恒吉商店吟醸

顔見世興行（南座上演）

佐々木高綱

…の舞臺より

市川猿之助の馬飼子之助

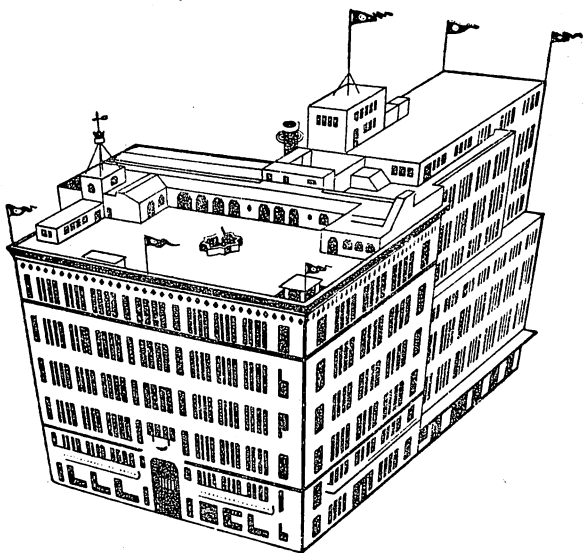


ひらかな盛衰記

…友右衛門の親権四郎…

——南座顔見世畫の狂言——





明朗な近世式店舗を誇る

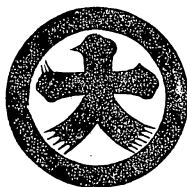
新装のだいまる

高倉通に面して地下一階、地上八階の近世式店舗が完成致しました……………

良品の推奨・粗悪品驅逐
市内に於ける最低の賣價の

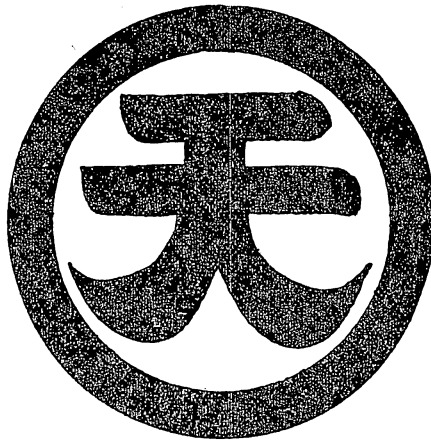
信條にもとづき一層配絡使命の達成に邁進致します。 何卒防寒用品の御支度はもとより歳末御贈答の品は一切だいまるへ御用命下さいます様、御願ひ申上ます

最良の品質
最低の賣價



月曜日 休業
大丸
京都・四條

淡口醬油の親玉



只今十六日 立詰 樽中 特賣

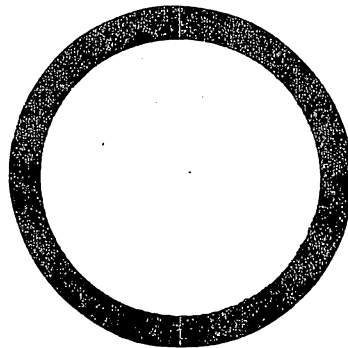
播州龍野

◆色ハ淡クテ味ノ良イ◆

日本丸天醬油株式會社

何云ふても

醬油は赤丸



アルマカ

御家庭向藏元直詰
六十立詰小樽モアリスマ

濃口ノ本場備前ノ王様

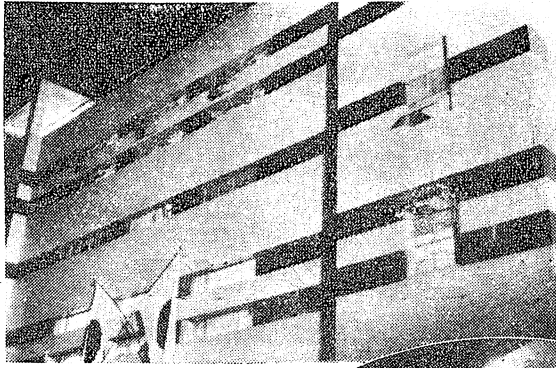
備前鉾立

近藤敬次郎釀

昭和十年十月開場

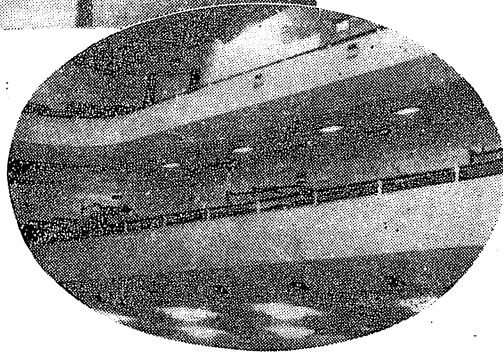
寫眞は

上……松竹座外観
下……内部二階席



の店務工瀬波白
るせ工施近最

——座竹松都京——



負請計設築建木土

店務工瀬波白

町丸末上町屋竹ヲ通町仲區京中市都京

番八八二四(3)上電



詞 夫 俊 村 野
曲 編 作 夫 春 脇 宮

荒海と闘ふ船乗が
出船に寄せる唄！
流行歌

港 出る 時



郎 一 本 橋
團 樂 絃 管 イヘイタ 奏 伴



ドーコレイヘイタ



た は る こ の 娘

斷然シイクな
ジャズ
コーラス

ート ツ ニ
ズイーボムズリ

ムズリー ト ツ ニ
詞 作 ズ イー ボ
曲 編 作 に 並

ドーコレートツニ



付 添 説 解 曲 樂 スーケ 折 枚 二 麗 美 曲 ト ル ア ツ オ モ

ルヘツゲ 調 長 ト
番 五 二 五 號 番

小 夜 曲

あらゆる時代を超越
した樂聖の傑作……
絃 樂 合 奏

團 樂 絃 管 ア ナ イ タ ス ・ リ イ ウ

ドーコレルタスリク



大日本蓄音器株式會社

南座顔見世畫の歴巻とも稱すべき

吉右衛門の船頭松右衛門

—— ひらかな盛衰記より ——



記 衰 盛 な か ら ひ

言 狂 之 畫 世 見 顔

吉右衛門の
船頭松右衛門
實は
樋口次郎兼光



時 藏 の
女 房 お よ し



筆お娘の入華の車魁

藤波芙蓉先生創製の

美粧料の使途は

當園へ御相談下さい

親切に御答へ致します



和洋結髮
婚禮仕度

青木美粧園

同

支

店

京都市河原町四條南
電話下五五五六番
京都市四條小橋西詰南

高級パン
和洋菓子

京都松竹系劇場

一手販賣

藥學士が監督する理想的製パン工場

大日本製パン工場組合員

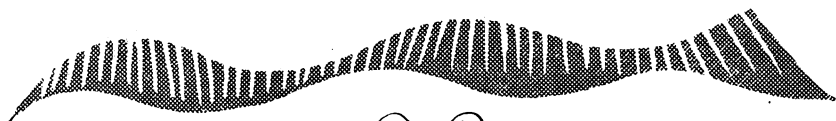
日

丁堂

電話祇(6)二四一八番

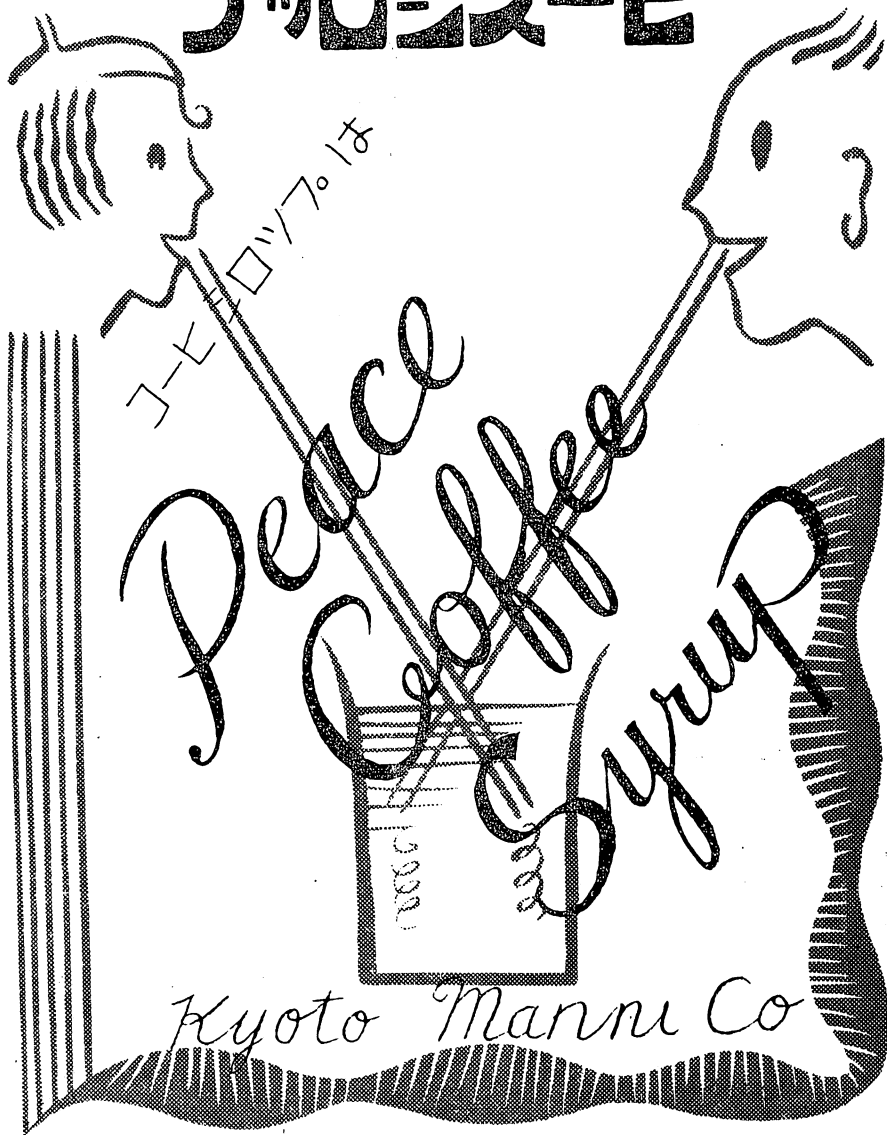


BEST BREAD



TRADE  MARK

ピアロシスーピ



Kyoto Mannu Co

金鶏印罐詰 二大製品

1. 純良精選の牛肉
で御宅います
1. 不意の御來客に
1. 御酒ビールの御友に
1. キャンピングに
1. ハイキングに
1. 各地百貨店
著名食料品店
に販賣致して居ります
1. キンケイ印を御指定下さ
い



洋酒・飲料水・罐詰

株式會社 横山商店

大阪東區豊後町三



助之馬左の助之猿——衛兵尉砂高の郎四幸

「袴 人 二」るみに世見顔でり振年四十



「涙の四ッ橋」の場面集・

上から

梅 魁 壽
玉 車 三
郎

京の名物 歌舞・人情人形

くら井屋

新京 隆・菊本 四六五二





心ゆくまで浪速の情緒をたゞへたる涙の一齣——
 かなへ會の梅玉、壽三郎、魁車の活躍に延三郎、
 芳子を配したる關西方の熱演場既に各地に上演し
 て無條件に絶讃を博したる名作

鳥江鋳也作

「涙の四ッ橋」

顔見世夜の部に上演

左から

壽三郎……中村染之助
 梅玉……千年屋おたつ
 魁車……藝妓糸次



吉 例 曾 我 對 面 —— 幸 四 郎 之 曾 我 五 郎

東 西 之 巨 頭 一 堂 會 々 …… 顔 見 世 之 決 定 版 大 舞 臺



OSAKA

御進物の
御選擇は
松坂屋の食料品

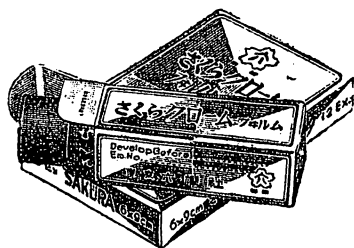
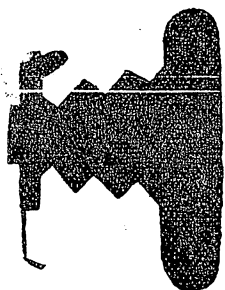


京 阪 電 鐵 車 內 廣 告
 同 沿 線 看 板 廣 告
 同 待 合 ポ ス タ ー 掲 出
 京 都 全 市 浴 場 廣 告
 同 電 車 ポ ス タ ー 型 廣 告
 輕 氣 球 掲 揚 廣 告

實業廣告株式會社

京 都 市 三 條 寺 町 角

電 話 本 局
 四 八 九 六



名○聲○斯○界○隨○一○

さくらクローム

フィルム

斷然優良廉價なる國產——六櫻社製品

特約店

ーリリ
アディア
ルーパ

~~~~~  
店料材眞寫カヲタカ

角町原河條二市都京  
番一〇四四(3)上話電



アトストンメトーパデの樂娛藝演

# 結核移動演藝の御利用を!

これは皆様の餘興の相談所です

お正月の餘興の御豫約はお早く!!

凡ゆる演藝娛樂の豊富を誇る弊社が、人氣と笑顔を博してゐる專屬技藝員を皆様の御希望に應じ移動演藝として派遣いたします。  
大衆的なもの、高尚なもの、多種多様な文字通り笑ひと興趣つきぬ多彩の内容で例へば落語、漫才の一人或は二人の演藝種目から十数人數十人の一座に至るまで御希望の陣容で御指定の日時場所へ出演いたします。

## こんな場合

官衙、學校の催しに、記念運動會又は歓迎歡送の催しや集會、結婚其他の披露宴から一般の宴會、宴席等々、演藝のデパートメントストア吉本の移動演藝の御利用で愉快に面白く一層盛衰ある催しになります。  
尙商店、會社の宣傳法として、演劇、演藝とのタイアップを御希望の際は、小劇場から大一座の編成を御相談に應じます。

御申込みは

吉本興業合名會社の

移動演藝部へ

大阪市南區東清水町三〇

電話南(四七七八番)

電話南(四七七八番)

京都は——(本局六〇四三番新京都花月劇場内)

神戸は——(本局二二三三番新開地 多聞座内)

東京は——(九段三四六番 東京支社)

横濱は——(長者町三一九番 花月座内)

演藝種類  
落語・漫才・漫談・奇術・音曲  
役・藝・歌・踊・日本舞踊・  
レビュー・新舞踊・喜劇・劍戟  
ジャズ・民謡・曲技・寸劇  
モダン・コメディ・歌舞伎  
等々他諸藝何でも網羅して  
ゐます。

派遣演出所  
大阪・京都・神戸・東京  
地方巡回も應じます。



山内河の次團左——花初野上紛衣天

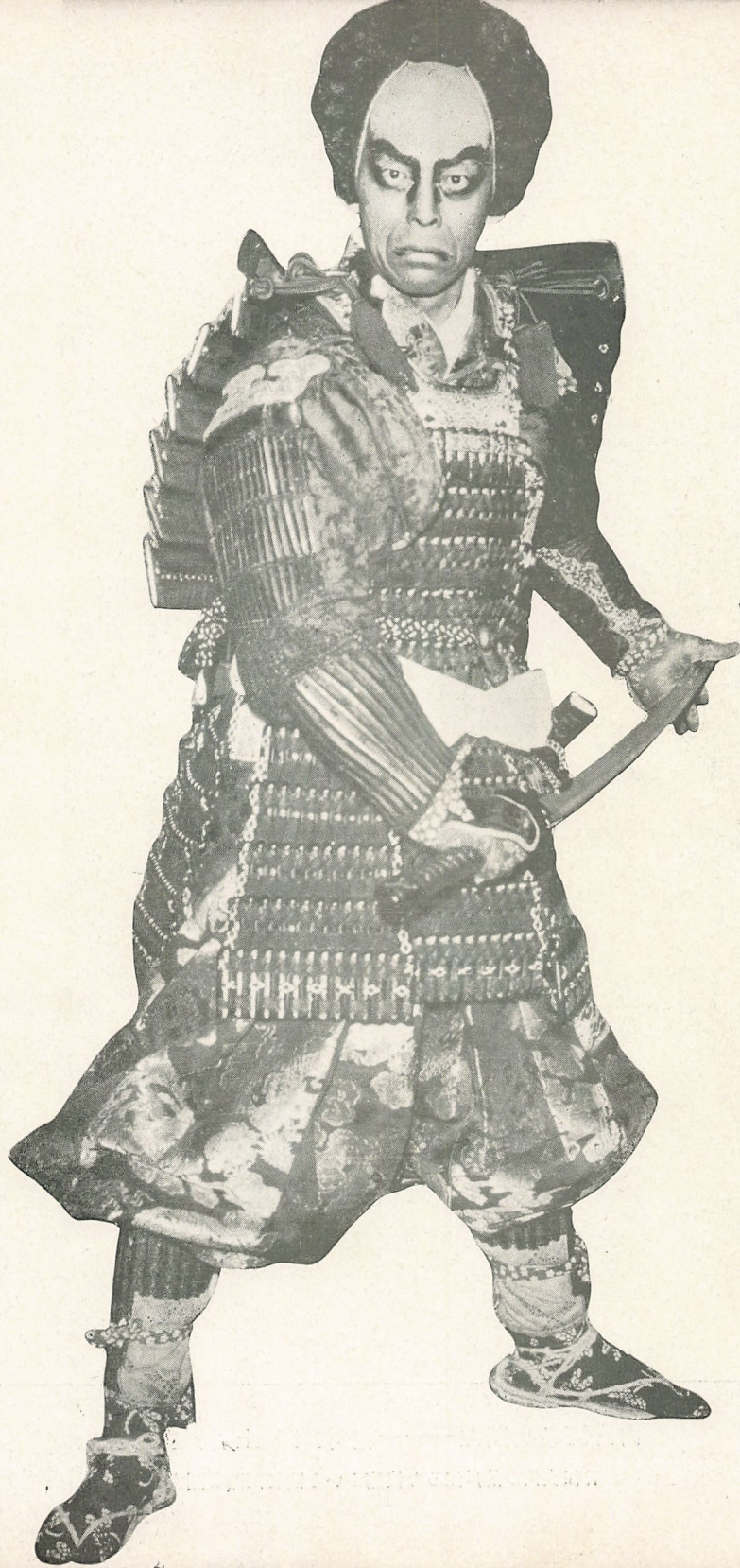
言狂表代の前戸江るな快痛ふいと演初西關次團左



顔見世上演

一谷 嫩軍 記

吉右衛門の熊谷次郎直實





顔見世上演

一谷嫩軍記

時藏の玉織姫



お正月の晴衣裳は……

訪問服・繪羽羽織・丸帯・なごや帯  
コート地等

皆様の高島屋へ！



京都  
烏丸

高島屋





(座 南) 演上部の夜世見顔  
 れた討の辰研

——次辰屋研の番八十助之猿——

すまりあでルナデリオの辰研たれさ評としな者役辰研に他の助之猿



# 松竹衣裳部

## 小道具・小裂 貸衣裳

素人演藝會  
宴會の催物  
春秋溫習會  
婚禮の衣裳

其他一般の衣裳に少多不拘御利用  
さいます客來の御相談に應じ便利よく  
お取り計はし致す.....

本店

東京支店

大阪市浪速區南坂町松竹ビル内  
電話 戎五 六三四番  
東京市淺草區駒形町二十三番地  
電話 淺草 六六六一番



# Papilio

オークル化粧をなさるみなさま！

なんだかこの頃お顔にシミやソバカスが増えて  
お顔が赤つぽくなつたと思ひになりませんか？  
それはこれまでの粉白粉は五十倍の顕微鏡でみると  
色素の生のまゝの塊が混つてゐてそれが皮膚を  
ソバカスの様に染めてゐたのです。くどくは申  
せません。つまり此の恐るべき色素の生の塊が  
なくなつたのがバビリオなんです。寫眞を御覧  
下さい。嘘だと思つたら薬局で顕微鏡でどんな  
粉白粉とでも比べて見て下さい。キメどかノビど  
かこれこそ本當に世界一の粉白粉だと専門家が口  
を揃へて言ひました。

巨額の費用を使つて伊東化學研究所がフランスど  
の競争に勝つて、遂に世界一の粉白粉が日本で出  
來てしまつたのです。

バビリオ

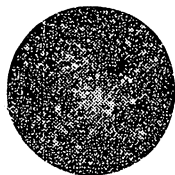
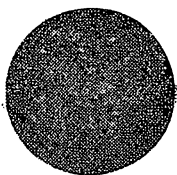
この美しいめど  
純潔さをみて下さい。

フランス品

さすがに分子は細いですが  
未だあるこの黒點が  
恐ろしいのです。

これまでの粉白粉

分子からして荒いでせう  
この黒點が色の生のまゝの  
かたまりなんです。



肌色三種・濃肌二種・黄肌・  
カカオ・桃・黄・緑・紫・白・  
有名薬店化粧品店デパートにあり  
試用品は二錢切手封入お申込の方  
に進呈します  
定 價：六十せん

# パピリオ

十二色  
粉白粉

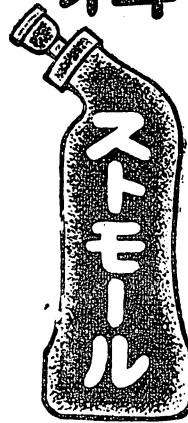
醫學博士 辰己庄太郎氏 推獎  
醫學博士 倉田包雄氏 創製

濃厚原料 (百倍ニ稀釋)

(有名藥店及ビ  
デパート藥品部ニ有リ)

# 吸入 含嗽

## 原料



咳歩  
殺菌  
消炎

含嗽トシテ

吸入トシテ

扁桃腺炎、咽喉加答兒、口内炎、齒槽膿、漏口臭症、臭鼻症  
病入ノ口中ヲ清潔ニスル目的  
從來過酸化水素ノ含嗽劑ノ様ニ口ノ中ノ粘膜ヲ刺激スル様ナ事ガナク無刺激デア  
リマス。然モ過テ飲ミ下シテセ無害デアリマス。含嗽シマスト心地ヨイ香氣ト快  
味ヲ覺ヘ清爽ノ感ガシマシテ氣分爽快トナリマス。即チ含嗽劑トシテ萬點ノ性質  
ヲ具有シテ居リマス。

寒胃、百日咳、氣管枝炎、肺炎、結核等ノ咳嗽ヲ發スル疾患ニ對シ「ストモール」  
ノ百倍溶液ヲ吸入器ノコツブニ入レ一回二杯宛一日二―六回吸入スレバ良ク其ノ治  
療及豫防ノ目的ヲ氣持良ク達シマス。

定價〔小 約十五日分 (吸入含嗽液三千瓦ヲ造ルヲ得ベシ) 六十錢  
大 約三十日分 (吸入含嗽液三千瓦ヲ造ルヲ得ベシ) 一十圓

大坂市東區伏見町三丁目

發賣元 光榮商會

電話北濱三三五番



一日初日

幕開時四日毎  
幕開時三日日二・日初

松永風  
望月太左衛門  
柏伊三郎  
演出

櫻・四十錢  
菊・六十五錢  
三等・九十五錢  
二等・一円五十錢  
一等・三円五十錢

初日割引料金

尾上菊五郎指導日本俳優學校劇團公演  
尾上菊五郎主演  
坂東三津五郎加入

第一靈 第二馬盜 第三京子娘道成寺 第四巷談宵宮雨 第五棒しばり

よき指導者に依る新人の本格的演技を御覧下さい  
俳優學校劇團の得意の出し物  
長唄子連中  
長唄子連中  
大阪初演 菊五郎と三津五郎の共出合ひ！

◇備完置裝氣換・房暖◇

大阪歌舞伎座

大阪歌舞伎座十一月公演  
に連日超満員を打ち續けた

曾我廻家の舞臺から

上は「故郷の土」

五郎の農夫 芳太郎  
大磯のその妻 お澄



下も同じ五郎劇の

「妻の戦術」

五郎の敬易妻 お龍  
蝶六の老主人 小川



大 阪 歌 舞 伎 座 十 一 月 上 演

五 郎 忠 臣 藏

悲 痛 な 城 明 け 渡 し の 場

ゴッスツをさげむの彼

演 出 に 思 存 分 笑 つ て 下 さ い







座伎舞歌阪大の月一十もれこ

りより替の二の郎五家廻我曾

「土の郷故」——は下

「坂番一」——は上





角座十一个月の舞臺より  
關西新派のお名残上演

お好人のし仙女「  
笑話の……の老小柳辯護士  
キ

證券金融

有價證券賣買



株式會社

日本信託銀行

本店

大阪市東區今橋二丁目

支店

東京市日本橋區南茅場町



最 白 面 新 興 映 画



全 発 聲

# 大 尉 の 娘

井 上 正 夫 主 演  
水 谷 京 子 演

新 興 キ ネ マ が  
新 春 に 送 る 絶 對  
他 社 の 追 従 を 許 さ ぬ  
秀 粹 最 大 の 悲 劇

清水 将 夫 ・ 浦 邊 粂 子 ・ 高 橋 潤  
御 影 公 子 ・ 田 中 筆 子 ・ 米 津 左 喜 子  
三 樹 豊 ・ 山 田 己 之 助 ・ 鈴 木 光 江  
宮 島 啓 夫 ・ 吉 田 豊 作 ・ 金 澤 コ ン チ ャ ン  
原 作 中 内 蝶 二  
野 淵 昶 監 督 第 一 回 の 現 代 劇

新 興 キ ネ マ 株 式 會 社

十二月號

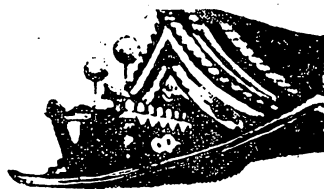
藝雅·雲笈劇續·刊內  
**通類編**

第十年

第百一十輯







# 顔見世と競演

高安吸江

川原の霜にふるへながら遠く千鳥を聞いて師走の花  
の芝居天國を思ふ季節趣味的な顔見世はもう古い  
昔の夢となりました。少々の寢坊も今は悠々と序幕か  
ら見物が出来、阪神その他の住人も大詰を見残す心配  
もなくなつた今日此頃、標本的に並べられた諸名優の  
當り藝を、安心して見物し得られるといふ、のどやか  
な京の忙しい師走風景、それが顔見世と名づけられ  
るのです。

それで今年の顔見世としては、古典的な竹拔五郎に  
對面、新十八番の七ツ面、狂言種の二人袴、義太夫も  
のでは逆櫓に一の谷、默阿彌の河内山に綺堂の高綱、  
研辰から春日局、涙の四ツ橋まで新舊とり交へての  
出しもの、何れなりともお好次第の並べ方、俳優では

幸四郎、左團次、吉右衛門、猿之助等へ大阪の梅玉、  
魁車、壽三郎等が加はり、病人の中車、歌右衛門は別  
として羽左衛門、菊五郎、延若などをのぞけば、先づ  
大體に於て東西の幹部を網羅した豪華版であるには違  
いありません。

役々について氣がつくのは幸四郎が得意の踊以外僅  
に對面の五郎位、イヤ大役の五郎を僅になど云へば  
叱られるかも知れぬが、いつも奮闘そのものゝやうに  
活動させられる此優としてはたしかにそんな感がしま  
す。

それから吉右衛門の熊谷や樋口、左團次の高綱、猿  
之助の研辰などは既に定評のあるもの、かなへ會の四  
ツ橋も試験済であり春日局やお筆も柄相應といふ處で

しやう。

それよりも問題になるのは松浦の太鼓などと大分勝手のちがふ松江侯、三浦の助より一層若くて腹の六ツかしい敦盛で、伶俐で癡性の吉右衛門や梅玉が此等をどう處置するかは見ものでしやう。しかし更に面白いのは河内山です。私は卅餘年前病氣した團十郎の代りに五代目菊五郎が此役を買って出たのを見たことがありますが、成程河内山にはこんな味もあつたかと非常に興味深く感じたのでした。團十郎を踏襲する幸四郎とはまた別な味のある左團次、お茶道坊主よりも寧ろ上野の使僧としての上品さを多く持つ高島家、線は太いが麗しい、そしてどこか深い處にピンとした強味を含む此優の河内山は少からぬ興味をもつて迎へらるべきではないかと思ひます。私が前に云た標本的といふのをこゝでは左様になり得ると訂正しなければならぬがその効果の未知數だけにまた魅力も保たれるわけです。

未知數の魅力と云つた序に思ひましたが、年末などの興行には昔からよく毎日替の忠臣蔵などで一般の好奇心を煽るやうにして人氣を得た事がありました

忠臣蔵の役々を毎日役者を替へて演じさせるのですが今日ではそうした大かぶりの方法は實行出来ないでしやう。

しかし場合によつては此に類した競演の形式は随分試みてもよいと思ひます。例を今度の顔見世にとると佐々木や研辰或は四橋、春日などは無論そのまゝとし

#### 對面

五郎(幸四郎、左團次) 十郎(梅玉、吉右衛門) 工藤(左、幸) 朝比奈(友右衛門、猿之助)

#### 逆櫓

松右衛門(吉、左、幸) 權四郎(幸、友) お筆(魁車、梅)

#### 一の谷

熊谷(吉、左、幸) 敦盛(梅、吉) 玉織姫(魁、時河内山)

#### 河内山

河内山(左、幸) 松江侯(吉、梅) 小左衛門(幸、左) 此中の二三を晝夜同様にし出し唯役者だけを換へるのです。それで一面各優等の熱演を促すとゝもに他方には同一狂言が役者次第で、如何程異つた味を出し得るかを検査することも出来ます。

花のやうに絢爛な鴈治郎、月の如く婉麗な梅幸を失つた歌舞伎國、中、歌は病み、羽、菊は遠しです。私は豪華版の顔見世に一抹の淋しさを感じてフト斯様な競演法を思付いたまゝ書いて見たのです。





# 「佐々木高綱」

岡 本 綺 堂

京都では「佐々木高綱」が出るさうで——又かと云はれなければよいかと危  
んでゐます。改めて申すまでもなく、大正三年の初演以來、杏花十種の一とし  
て、東京にも各地方にも幾たびとなく繰返されてゐるもので、現に今月の東京  
劇場でも上演中です。

今月の東京諸新聞の劇評に因りますと、又かと思ひながら矢はり左團次の佐  
々木が一番面白いと云ふことに一致してゐるやうです。どうか京都でも又かと  
云ひながら、やはり面白いと云ふことになるのを祈つてゐます。又かと云はれ  
るほどに繰返されてゐるので、左團次君の舞臺がいよく洗練されて來たのは  
事實です。それは御覧になれば判ることですから、特に身最良めいた提灯持は  
致しません。

そこで作談もたび／＼書いてゐるので、別に云ふこともありませんが、初め  
てこの劇を観る人に對して一應お断り申して置きたいのは、佐々木の出家態度

# 研辰と私



# 木村錦花

今、病後静養なので思ふやう  
な事は書けません、此の脚本  
は震災直後私が京都に移住して  
毎日大阪の芝居へ通つて居る時  
分に、會社の書庫から借出して  
讀んだ『敵討高砂松』に據つた  
もので、研辰があの場合若し近

です。およそ人間の出家遁世に二様の動機があります。一は世を果敢なむもの  
一は世を憤るもの。兩者ともに此世に住むに堪へない心持は一つですが、前  
者は消極的、後者は積極的の相違があります。こんな馬鹿々々しい世の中に住  
んでゐられるものかと、自分から此世を蹴飛ばして立去るのは後者の所爲で、  
積極的でもあり、近代でもあるやうに思はれます。

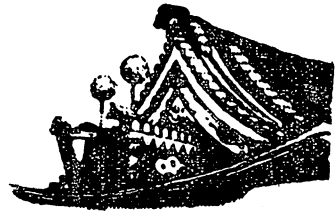
佐々木の出家も後者に属するもので、彼の西行などの出家とは全く行き方が  
違ひます。兎かくに消極的の出家遁世の多い鎌倉時代に於て、佐々木のやうな  
態度もまた是認されたものと見えて、源平盛衰記の作者も「善にも惡にも、猛  
かりける心なり」と云ひ、その勇猛を讃嘆してゐます。したがつて此の劇も、  
佐々木高綱ほどの武將が出家するからと云つて、哀れとか、悲しいとか、寂し  
いとか云ふ気分は少しも現れず、徹頭徹尾その勇猛心を發揮したものと御覽を  
願ひたい。センチメンタリズムは一切抜きです。

實をいふと、熊谷蓮生坊とて、その出家の動機は芝居で見るやうに、花の  
盛りの敦盛を討つて無常を悟つたわけでは無く、久下直光との領分争ひに、自  
分が負公事になったのを憤慨して剃髪したので、出家の動機は佐々木と  
同一で、これも一種の勇猛心の爆發に外ならないのです。

主君の頼朝を嘘つきと罵る佐々木の態度の善惡に就ては、観る人々の議論が  
ありませう。彼に對して同情を懷くも、反感を懷くも、それは各自の御隨意で  
作者の私が彼是れ云ふべきではありません。唯この舞臺の上に一個勇猛の人間  
を認めて下されば宜しいのです。

代人であつたら如何するかと云ふ考へから、趣向を立てたもので、其後東京へ歸つてから、雑誌「歌舞伎」へ此の話を書いたのが動機となつて、竹柴兼三君が脚色し、猿の助君が上演したと云ふ譯で、此の脚本は屢ば繰返され、其のつど人に語りもし、書きもしたので、今更に申上げる事は全く種切れになつてしまひました。只近頃可笑しいと思つた事は、研辰の持つた刀が某家に秘藏してある、君なら安く譲つても宜いがと云ふ話もあつたり、又研辰の墓は何處にあるか教へて呉れと云ふやうな手紙が来て、とう／＼私を研辰の縁者のやうにしてしまひました。





# 大阪俳優よ奮闘せよ

菱田正男

— 今年の顔見世に期待すること —

年々歳々めぐりくる京の師走を飾る南座の吉例顔見世興行——今年もあとわづかで華やかな幕が開かれる。

東西梨園の錚々連の顔合せが人氣を喚んで、昔から所謂町方の箱入娘から、長屋の嬢連までが俗にいふ貧乏を質においてまでも年に一度のこの大芝居には出掛けるといふのだから、その大した人氣にはおどろかされる。

殊にちかごろのやうに、交通が便利に

なり、東京、大阪、神戸とどこへでも京都の芝居ファンが出かける時節で、相當芝居には見飽きてゐるやう筈の今日でも「顔見世」といへば、南座前に切符買ふための一日や二日の徹夜は平氣といふからますく恐れ入る、全く歌舞伎の魅力といはうか、おそるべきものではある。その待望の顔見世も、こゝ數年來、頃に東京色が濃くなつて、大阪俳優はホンのおつき合ひにひとしい形となつてゐる

もつとも今日のやうな劇場の情勢では、東とか西とか區別することそれ自體が間違つてゐるかも知れないし、こゝ頻繁に顔見世以外の時節に東京の俳優の來演があつて、東京俳優に對する關西人の親しみが從來よりズーツと深くなつて來てゐては、なまじい東西の區別はせぬのが當然かも知れない。

けれどもやはり上方で育つた俳優は關西俳優であり、お江戸育ちはやはり東京

俳優には間違ひないのだから大阪の俳優が東京の俳優より悪い立場にあれば上方人の納まらぬのも無理ではない、その間原因のいろいろの詮索はさておいて東京中心にある今日の劇場ではこれ亦止むを得ないことだと思ふ。

しかも今年は關西俳優の重鎮、中村鴈治郎が歿してはじめての顔見世である、今更乍らこの人の死は大きい、あの一際離れた「まねき」に「吊提灯」連名などにその王座を誇つてゐた鴈治郎の名も、今年から見えないのは愚痴つばいやうだが淋しい、同じ東京方にも壽藏、龜藏、秀調の計があり、壽美藏、もしほの東寶入りがあつた、こうした出来事を生んでまた巡つて来た今年の顔見世だけに淋しさの一人なのも道理である。

今年の顔ぶれを見ると、東京は左團次、猿之助、訥子、八百藏、芝鶴、延升、時藏、三升、吉右衛門、友右衛門、染五郎

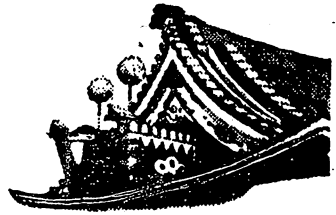
高麗藏、彦三郎、幸四郎、大阪からは梅玉、壽三郎、吉三郎、芳子、魁車、延三郎、福助、市藏らで、最初豫定された羽左衛門、延若も来ず、松蔦亦病中とて不参加だ、この顔ぶれで、狂言も、吉右衛門の「熊谷」に「逆鱗」左團次の「河内山」に「佐々木高綱」三升の「押戻」幸四郎の「二人袴」に「新七ツ面」猿之助の「研辰の討たれ」顔合せの「曾我の對面」と大阪の演しもの、かなへ會の「涙の四つ橋」と梅玉の「春日局」の十一種羽左、延若などの参加ないためか、堅物づくめである。

私は人傳に吉右衛門が、鴈後最後の顔見世とあつて、生前鴈治郎の當り藝でもあり、自らも屢々演じた「盛綱陣屋」か「石切梶原」をやりたいといつてゐた……といふことを聞いて、吉右衛門らしい人情味だと感じたが、これも仕打側に容れられなかつたものか、お藏になつて

こんどの二つになつたものと思ふ、私はこの吉右衛門の話のやうに、さうした意味での狂言も一つ位はほしかつた、然しその意味をもこめて播磨家が熊谷と、逆鱗の樋口で熱演してくれるであらうことを期待してゐる。

左團次の「河内山宗俊」も「佐々木高綱」もわるくないものだし、久しぶりであの名調子が聞けるのがうれしく、幸四郎や猿之助の善舞など好ましく、更に、梅玉、魁車、壽三郎らの『かなへ會』が當り狂言の「涙の四つ橋」で存分観客を唸らせやうし、梅玉、壽三郎の「春日局」の大阪方の二つの演し物と、各狂言に出演する大阪俳優の力演健闘こそ、鴈後最初の顔見世に期待する何よりのものである。多数の東京俳優中に伍して少人数ながら、大阪の俳優諸君が天晴れ奮闘してくれることを重ねて望んでおく。





# 顔見世雑感

高谷伸

顔見世や四條五條の橋の霜、

霧たちこめた鴨川の畔、南座の櫓が薄

墨に浮ぶ顔見世情調、づらりと並んだ招

き看板の書き出しに私たちが物ごころつ

いてから毎年見馴れてきた「中村鴈治郎」

の五字が今年から消えてしまつた。また

かと思つた紙治も梅忠も内蔵助も春藤次

郎左衛門も、あの成駒家では見られなく

なつたかと思ふと淋しい氣もする。

思へば鴈治郎の名も顔見世情調の一つ

なのだつた。

その鴈治郎の代りに書き出した中村梅玉の名が見える。これも十餘年前までは招き看板の大阪側の止め筆になつかしい名だつたが、先代歿後暫らく消えてゐたものだつた。鴈が去つて梅が咲いた。大阪劇壇にも春がくるか。しばらくは冬の風が吹くか。裏梅の魁耳も病氣癒えて顔を見せる。

鴈治郎の生前でさへ珍らしものぐひの世の中は大阪より東京の狂言を珍重して行く傾向があつたし大阪固有の義太夫狂

言は時間に壓迫されておいおい數を減じてきた。晝夜二部の十數時間の顔見世でさへ時間が足りないとなると普通興行なら如何なるだらう。その代りに狂言の數はかなり多い。昔のやうに前、中、切といふやうな建て前でない。番號だ、これをその道ではみどりといふ。

晝夜通して十一の狂言のうち、大阪側のものは「春日局」と「涙の四ツ橋」の二篇、春日局は櫻痴居士の作品以後、大阪でも痴雪泰孝兩氏の作があつて、南座

改築の時に出た「新東鑑」にも春日の局が出たと思ふ。大阪風の世話狂言が一つもなく、この「四ッ橋」で鼎會が物を言ふ筈だ。

これは川村花菱氏の「溝を距てゝ」が改作されて「涙の四ッ辻」として昭和八年二月南座でつゞいて大阪歌舞伎座で關西歌舞伎の人々で上演された後に、その續篇として書き卸されたもので、川村氏と鳥江氏との間にござつた事件のあつたことも記憶が古くはない。その座談會の席上で「續涙の四ッ辻」といふが、最後の四ッ橋の別れは「涙の四ッ橋」ぢやないかといふ洒落から出たまことは、たうたう本名題となつてしまつた。

義太夫ものの二つのうち「逆鱗」は京都では初演ではないが珍らしい。吉右衛門としては京都初演だ。これは魁車のお筆友右衛門の権四郎と共にきつと評判になるだらう。しかし、吉右衛門の當り役で

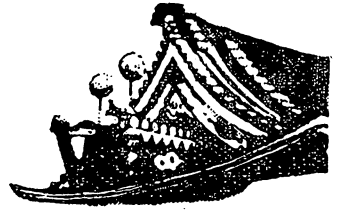
まだ關西では演じてゐない毛谷村や梅田がある筈だ。今度のやうな他の狂言の固い時は梅田など殊によかつたのではないか。一の谷の組打だけ出すのに時間の點では重寶だらうが、陣屋なしでは作者の本意は通らない。檀・山の段も組打だけでは敦盛として扱はねばならないから熊谷の悲痛味が強くこない、幸四郎、中車なども出したが、こんどは吉右衛門だ。左團次の河内山は大顔合せで見せるのだし京都では初めてだが、佐々木高綱はこの前出でから日が浅いので早すぎる。先陣は早いが勝といふ洒落か。

とにかく、左團次吉右衛門を中心に押し立てた顔見世だ。東京俳優で顔見世には一番お馴染みの幸四郎は二人榜と新七ツ面で團十郎後期の作品を見せるが、幸四郎猿之助と二人あつて踊が二つきりはすこし淋しい。

猿之助といへばこれ亦京都初演の「研

辰」で活躍する。大顔合せの「對面」も華やかだらうが、左團次の祐經、梅玉の十郎、幸四郎の五郎といふ所である。

歌舞伎十八番は「押戻」がたゞ一つ序幕に出る、東、西、水に違つても顔見世らしい古風さはあらう。十八番を序幕に出すのも近年の吉例になつた。來年は「象引」でも出るのだらうか、左團次が来るのなら、河内山や高綱より「毛拔」が見たかつた。これは明治末年に辨天座で出たきり關西では出ないのだから。結局、狂言として新味珍らしみそして軟らかみには乏しいが、配役をできるだけ裕澤にしたところが顔見世の値打がある。未知の興味よりも、きまりきつた面白さそれが顔見世興行の安全性を齎らすものであらう。



# 歌舞伎十八番の「押戻」

堂本寒星

「暫」「助六」「勧進帳」「矢の根」「鳴神」「毛拔」「關羽」「鎌鼬」といつた今日舞台で見られる「歌舞伎十八番」以外に、最近市川三升によつて復演されてゐる歌舞伎十八番が二三ある。

今度南座の顔見世に上演された「押戻」もその一つでこの狂言は同じく三升が復演した「象引」「不破」と同様久しく中絶し、脚本はもとより、確たる文献すら傳はらないものだから、三升がこれをどんな風に復興したか興味をそゝる。

「押戻」がいつの頃から創まつて、い

かなる動機でその獨立性を失つたかといふことはこれまた文献に徴すべくもないが、その形式だけが今日上演される「鳴神」や「道成寺」に收容れられてゐる。

それで我々はこれによつて、古劇「押戻」の倂を不完全ながら髣髴することが出来るのであるが、「鳴神」や「道成寺」の一部として現はれる「押戻」によつて推定すると、「押戻」とは荒れ狂ふ惡鬼怨靈を大力無双の勇士が押戻し降伏せしむといふ劇的動作であるらしく、さうした單純な劇的内容をもつ「押戻」が

いつしか獨立性を失つて、他の劇に併合せしめられたことは、寧ろ當然の運命であるかのやうに考へられるのである。

然し「押戻」といつたやうな古風な演出による歌舞伎が、よしんば「鳴神」や「道成寺」の一部としてでも、不完全ながら今日傳はつて來たことは我々の大きな歡びとする處で、三升がこれを獨立狂言として復興するに當つても非常に參考になつたことと思ふ。

「鳴神」や「道成寺」に現はれる「押戻」に就いては一陽齋豊國描くところの



浮世繪や、石塚豊介子の「壽十八番歌舞妓狂言考」に、その時代の扮装を窺ふことが出来る。

それによると、籠手脛當、腹巻に大どてら、三本太刀を差し、簀笠をつけ、高足駄を履いて、太い青竹の杖をつき、頭は車鬘、顔を筋隈でどつてゐる。そして花道から現はれ、荒れ狂ふ悪鬼怨靈を舞台を押戻す所作があつて、これは今日でもほゞ同様の所演を我々は「鳴神」や「道成寺」に見る事が出来るのである。この役名は時によつて變化があるが、大館左馬五郎が普通で、佐久間信盛といふ場合もある。

猿豊介子によると、「押戻」には別に「草摺曳」の曾我五郎や朝比奈のやうに引台に二人並んで引道具として現はれ、扮装には簀笠を纏はず、肌抜武者で襷に杖、草鞋といった風な形式もあると言つてゐるが、元禄十年元祖市川團十郎が江

戸中村座で上演した自作の「兵根元曾我」の五郎、朝比奈相模川出合の劇書を見ると、五郎が大竹に大力にまかせて根こそぎにしてゐる所作があつて、この葉附根鞭のまゝの青竹が、「押戻」の人物のもつ太い青竹の杖そのまゝであり、その人物の扮装や、勇壯な劇的所作が、二者

ともに酷似してゐる點から見て、「押戻」に今日現はれる大館左馬五郎が、「兵根元曾我」の曾我五郎と頗る密接した關係にあつて、或は「押戻」はこの「兵根元曾我」から生れたものではなからうかと推考されるのである。三升の「押戻」はこれに負ふ所が多いであらう。

堀野京都販賣店

キリン

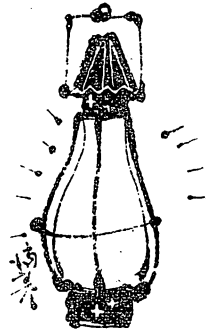
樽詰と

かわらぬうまさ

二大特色

一絶対防腐ナシ  
一風味樽詰同様





# 顔見世狂言解題

世話垣 鈍文

## ◆押戻

歌舞伎十八番の内の「押戻し」は二代目市川團十郎の創案になつたものである以外は全く未詳のものでありまして、之が獨立した脚本もなく、現在では「道成寺」や「鳴神」の一部に吸收されて傳存してゐるのみでありましたが、昭和九年四月の東京歌舞伎座で市川三升の手で獨立した一ツ狂言として復活上演をみたので御座いました。押戻しと云ふのは荒れ狂ふ惡鬼怨靈の類を花道の中程から舞臺

へ押戻して行くと云ふ豪壯な意味でありまして、この荒事故に市川流の家の藝に加へられたもので御座いませう。かゝる狂言は筋よりもむしろ舞臺一面に立翠る濃厚な歌舞伎情緒の大時代な味が尊重されますので、顔見世を御覽になる皆様の心を一瞬にして歌舞伎の眩惑な世界に引入れて終ふ眞とに恰好の開幕劇と申て良いと思ひます。

## ◆ひらがな盛衰記

これは元文四年四月十一日（百

九十六年前）より竹本座で上演されました操淨瑠璃から輸入された狂言で、作者には文耕堂、三好松洛、淺田可啓、竹田小田雲、千前軒、などの名が見えて居ります。全部で五段に別れて居りますので、今月上演されます權四郎住家の件りは三段目の後半に當るところであります。この狂言の題材は義經の木曾義仲の討伐から一の谷に至る史實を背景として樋口次郎兼光の孤忠と梶原源太の戀と義とを焦點として提かれたもので、この權四郎住家の場は即ち樋口次郎が活躍する場面となつて居るのであります。權四郎と云ふ老船頭は善良で、而も頑固一徹と云ふ人物で、良く此の場面を活かして生彩を加へて行くのは、かう云つた義太夫狂言の獨特の組立法として面白いものです。樋口次郎も至難な大役で、三代目歌右衛門と七代目團十郎の型が芝翫と九代目團十郎とに傳はり、現代では吉右衛門がその兩型を巧みに折衷して演出を練り、夜の部の熊谷と並んで此の優の當り狂言としてあまれく定評あるところであります。

## ◆二人袴

福地櫻痴居士の作りました狂言  
仕立の所作事中でも二人袴は素襖  
落と並んで最も上位に置かるべき  
ものでありませう。しかし此の名  
脚本も萬一九代目團十郎の演出に  
待たなかつたと假定すればかくも  
面白くはならなかつたかも知れま  
せぬ。此の點狂言を歌舞伎に取入  
れた九代目の功蹟を忘れる譯には  
参りません。現在では幸四郎が師  
直傳の藝を傳へて數回上演致して  
居りますから、その舞臺面の面白  
さはトツクに御存じのことゝ存じ  
ます。因みに此の所作事の初演は  
明治廿五年十月の歌舞伎座で御座  
いました。

## ◆壽會我對面

會我物語を題材とした狂言は隨  
分古くから歌舞伎の世界を賑はし  
て居りまして、昔は正月狂言には

必ず會我物語に因むだ狂言を上演  
した程の、山緒深いものでありま  
す。従つて會我兄弟を主題とした  
狂言の數は實に夥たしい數に及ん  
でゐるのでありまして、その最も  
古いものは明暦元年八月（二百八  
十一年年前）の山村座で上演され  
た「會我十番斬」で御座いました  
この「對面會我」は延寶四年正  
月（二百六十六年前）の中村座が  
初演で、工藤が若正十次郎、五郎  
が團十郎、十郎が中村七三郎で、  
五郎の荒事、十郎の和事の源は此  
の狂言を以つて嚆矢とされてゐる  
と云はれて居るので御座います。  
此の様に古典的に觀ても甚だ由緒  
あるものなので現在でも演技の上  
に色々と厄介な約束が口傳として  
傳はつて居るは勿論、配役の上に  
も座頭格の工藤の役を筆頭に、そ  
れ以下の配役全てが俳優の位附と  
見ることが出来るのであります。  
「押戻」と同様に古典歌舞伎では

ありますが、前者が古典を真似て  
復活されたものに引かへて對面は  
古來からの演出をその儘尊重して  
上演されて居りますから、この狂  
言こそ顔見世狂言中でも、最も原  
始的な歌舞伎の型式を傳へたもの  
として觀て頂きたいものと存じま  
す。

## ◆一谷嫩軍記

これは寶暦元年十二月一日（百  
八十五年前）より豊竹座で上演さ  
れました操淨瑠璃より輸入されま  
した五段續きの狂言で、並木宗輔  
が三段目まで作り四段目以降は淺  
田一鳥、並木正三、豊竹甚六、難  
波三藏、浪岡鯨兒の合作であると  
云はれて居ります。歌舞伎の舞臺  
で初めて上演されたのは翌二年五

月の江戸中村、森田兩座、同十一  
月の大阪中座で御座いました。題  
材は熊谷と敦盛、忠度と六彌大と  
の物語を骨子としたもので、二段

目の口と中とに當つてゐる陣門と  
波打際、三段目の切に當つて熊谷  
陣屋が最も大傑作として度々上演  
されて参りました。熊谷の型と致  
しましては、江戸では四代目團十  
郎、大阪では三代目歌右衛門の型  
が最も推賞され最近では九代目團  
十郎が名技を示し、現在では吉右  
衛門の當り藝として良く九代目の  
型を傳へて遺憾ありません。今年  
の顔見世では關西では珍らしい波  
打際の組打が上演されますが、こ  
の場面の熊谷は陣屋の熊谷より以  
上な難役とされてゐるだけに大變  
に興趣の深いものであるものであり  
ます。吉右衛門の此幕に於ける熊  
谷は屑て國民文藝會から推獎され  
た名演技で舞臺一面を壓する實に  
火の様な一幕で御座います。

## ◆天衣紛上野初花

河竹默阿彌代表作の一つで七幕  
十六場よりなる江戸世話狂言で初



ウ キ ス デ キ  
 ブ ラ モ ツ  
 ベ ユ ラ  
 キ ャ ミ  
 ジ バ ー  
 滋 養 葡 萄 酒

# 洋酒界の革命兒國產洋酒の逸品

## 國產金鶴印



元 賣 發  
 店 商 山 横  
 株式會社

大阪市東區豊後町三番地

電話東(94) 一六六一  
 二〇一三  
 四六四九

演は明治十四年三月の新富座。河内山を團十郎、直次郎を菊五郎、三千歳を半四郎、金子を左團次と云つた名配役で上演されまして以來、明治劇境の所産中最も大きな世話狂言の位置を占むるに至つたので御座います。今日でも三幕目に當つて居ります河内山の件りと、六幕目に當つて居る三千歳直侍の件りとは度々上演されて好評を得てゐる場面です。左團次の河内山は關西では初演ですが屹度

### 新七ツ面

豪快な河内山を見せて呉れるだろうと解題も楽しみにしてゐる一幕で御座います。

歌舞伎十八番の一ツに「七ツ面」と云ふのがあります。これは、元文五年三月(百九十六年前)江戸市村座の春狂言「姿視隅田川」の中に二代目團十郎が創始致しましたもので、寶生太夫の宅で色々

な能面を見せられた時に暗示を得て作つたものだとの云ひ傳へが残つて居りますが現今では全く廢滅して終つてゐるので御座います。しかし其後は近世に至つて、九代目團十郎が福地櫻痴居士に新作させて復活上演したことがあります。(明治廿六年十一月歌舞伎座)新歌舞伎十八番の内に加へられてゐる「新七ツ面」がこれであります。筋も狙ひ處も二代目のものは餘程變つて居りまして、舞臺は

北山御遊の場、北の大政所の侍臣侍女達が會呂利新左衛門を能面を以つて苦しめ様とするのを反對に新左衛門が巧みに能面を使つて踊り抜くと云ふので御座います。外に昭和三年十月の歌舞伎座で三津五郎の踊つた「新曲七ツ面」(竹柴金作作があります)が、これは落語の狸を舞踊化したもので御座いました。

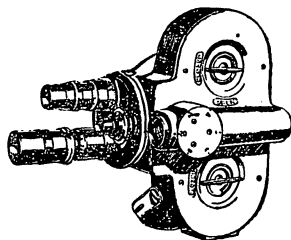
# 吉右衛門の二役

★  
姉小路 孝  
★

吉右衛門今年の顔見世では、樋口と熊谷との二役を務めて型物役者の本領を發揮するが、これこそ顔見世狂言中での壓巻と申してよからう。共に當代の樋口、熊谷との定評噴々たる吉右衛門當り役中での逸品であつて、その颯爽にして而も悲壯なる演技は、到底他の諸優の及ぶべき處ではあるまい。

『逆櫓』は最近では昨年九月の東京歌舞伎座、關西では昭和六年十一月の中座で上演され、大體の型としては三代目歌右衛門と七代目團十郎とのものが有名である。『納戸の障子さつと明くればで若君を左に抱きかゝへてかまへ、』『権四郎頭が高い』で二重から権四郎をにらみ下す型は歌右衛門の創始したものであり、『これも誰が庇、親仁様』で二重から下りて権四郎を敬ひ世話に碎ける處や、逆櫓を遠見の子役で演ずる處は七代目の創案だと云はれてゐる。勿論吉右衛門も此の型を踏襲した演出を採るが、これは明治時代の

## フィルム



十六ミリ界の  
最高峰

未だ曾てフィルムカメラで一呎のフィルムが浪費されたか？フィルムは映画になると同時に最も優秀なるカメラマンを兼ねボタンを押し給へ貴下のなされる事は唯それだけ

(呈進グロタカリあに店ラメカ流一國全)  
BELL & HOWELL CO. U. S. A



逆櫓の名手だつた芝翫や九代目の舞台から習得したものと云ふことだ。逆櫓の段に入つてからは、珍らしい古風な殺陣の數々を颯爽と見せて溜飲を下げて呉れる。友右衛門の權四郎も、既に數回となく繰返してゐる持役だけに安心出来るし、左團次の重忠は此の舞台により以上の貫祿を加へて行くこと、思はれる畫の部第一の期待篇だ。

『組打』は昭和五年九月の中座で上演されたのが關西では新らしい。熊谷

と云へば一般には陣屋の方が膾炙してゐるのではあるが、演技から述ぶならば此の場面の方が數等至難と云はれるのである。それは陣屋には色々と人の出入りがあるが、組打では終始熊谷と敦盛のみの芝居で觀客の眼が絶えず此の二人のみに集中されてゐる爲と思つてよい。近世では矢張り九代目團十郎の熊谷が傑作で、舞台には只空と水との水天一碧の書割、觀覽席一體を須磨の浦に見立て、後方の觀覽席から二

### 吉右衛門「熊谷」の型 (一)

吉右衛門の熊谷は一言にして云へば一切團名あれ」と平山へ云つて、平山に隠す様に十郎通りであると云へば盡きる。先づ陣門から述ぶるに、小櫻をさしの鎧、鹿角の兜花道に立留つて平山に小次郎が切込んだと聞いて、「南無三」の武者振ひ、舞臺へ來て軍兵のかゝるのを太刀を抜き横に振り冠り、左手を大きく擴げて大腕に陣門の中へ追ひ込む。二度目に小次郎を左手に抱へ兜を脱いでこれにかむせ、「貴殿は残つて功

波打際に舞臺が變る……。呼び留めは揚幕にて「オーイ」「オーイ」「オーイ」と三聲呼び、序の「駒を早めて追つかけ來り」で花道をスッポンで止り、「それに打たせ玉ふは……」のせりふ。序の「呼はつたり」で軍扇を開いた手の甲を前に真直ぐに上げ、

繁華街に近く…交通至便・閑雅な和洋室！

モダン階上浴室新設

# 南地ホテル

南海難波新地戎橋停前

電話 南 四一四・四四一番

— 宿 —

三圓  
二圓  
一圓半

額半憩





階一體にかけて、源氏の大軍が控へてゐるやうと云ふ宏大なる舞台装置の中にあつて團十郎の技倆が如何に豪壯で壯重なものであつたかは今も暗に残つてゐる處であるが、吉右衛門の熊谷はよくこの團十郎の型を自家の藝籠である自らの悲壯美中に取り入れて、當代隨一の熊谷に仕立上げてゐるのは特筆すべきである。最初揚幕から馬上で出て『オーイオーイ』と呼び懸けるところ平山の罵る聲を聞くところ、敦盛の首

を打つてから「カチードーキー」と句切つた云ひ様等、全て相手との距離を考へに入れた團十郎型だと云ふことだ。敦盛は梅玉が務めるが、東西の巨星が顔を合す第一の舞台でもあり、梅玉のこの若衆役にも興味が引かれる譯である。又、故意か偶然か吉右衛門のこの二役ともに、大海原を背景として活躍する役柄であるのも、何となく面白いではないか。

(十一月二十二日)

### 吉右衛門「熊谷」の型 (二)

左手に馬の首を控へて前にのり出す様に延び上つて極り、軍扇を閉ぢて手綱を取り、舞臺にかへり一度輪乗りをして上手大臣柱のかげに這入り、上手より下手へ、波の書割の中を通る。下手へ入ると次ぎは下手より遠見の子役が出る。拵は白境黒革おどしの鎧、黒馬、紫のホロに日丸の軍扇である。波幕切つて落ちると組打の場。大ぜりで熊谷正面向敦盛後向で組んだ形でせり上る郎式である。

シリウタオネに校結

…科病柳花…

院医原藤

★ 番六三六二戎話電 ★ 入西側ノ溝筋橋戎 ★

シリウタオネに校結

淋病科コナイン

淋病科コナイン

# ● 橋 ツ 四 の 涙 ●

て就に居芝の『味の方上』

今年ことしの顔見世かみせの夜に、梅玉ばいぎよく、魁車かいしや、壽三郎じゆさぶろうの「涙の四ツ橋」が、再び脚光けくかうを浴びることになったのは、大阪劇場



のため括目かっくくして欲しいと思ふ。この作品に盛られた人情、風俗が純然たる「上方の味」であつて、しかも舞台上の

—— 也 鍊 江 鳥 ——

時代を除けば、立派に「現代の大阪」の人情、風俗であることに注意して欲しいと思ふ。

もちろん、この芝居は花街に生れた物語であつて、花街特有の人情に終始されてゐるが、それは世間普通の男女が持合はしてゐる人情でもある。

自分を捨て、行つた男に對して、十八年も二十年の間、後家を立て通し一人の娘の生長のみを楽しみに暮して來た意地の女、それから世話好きで、浮氣つばいが、どこかに眞實味のある年増藝者、若氣の誤まりから女房子を捨て、江戸へ奔つたが、さて分別盛りふべんぼりの年になつて、親子の人情にめざめ、娘の顔見たさに舞戻つて來た男……かうした三人の人間が、かもし出す一つの世界は、とりわけていふ程の事もない、世間によくありがちな境遇であるが、かうした平凡な話題は、世間の

どこにでもころがつてゐて、殊に花街の人達には馴染深くながめられるだらうと思ふ。

はじめ、私がこの作品を書いた時に、これからの大阪歌舞伎の進路の一つとして、こんなものがいゝのではないかと、強い自信を持つてペンを執つた。

一昨年の春、中座に初演された時、私の思ひ通りこの芝居は受けてゐたやうだつた。そんなら、どんな所が喜ばれ、受けてゐたのかといふに、無論三人の俳優連の至藝がアツビルした事だつたが、芝居全體をおほふてゐる『上方の味』がよろこばれてゐた事も見過せない事實だつた。

大阪歌舞伎の人達が、初めて自分達の世界の芝居を、いかにも、延々とした感じで、十二分にやつてゐるといふ感じが、見るものをして大變愉快にさせられた。台詞一つだつて、日常自分

達が使つてゐる大阪辯を、自由に驅使し、身體の動きから氣分の出方、すべて子供の時から持合はしてゐる『上方』の味でやるのだから、これこそ間違ひのない所である。

その時から私は、かうした『上方の味』を湛えた世話物の上演こそ、大阪歌舞伎の行手に展ける新境地であることを確信した。

今年の九月、大阪歌舞伎座に谷崎潤一郎氏の「春琴抄」を、梅玉、壽三郎に依て上演したが、これとて『上方の味』で見られる芝居なので、破綻なく『大阪人の生活』が表現出来たと思つてゐる。

その芝居を見られた長谷川伸氏は、白井會長に「將來の大阪劇壇には、もつと大阪辯の上方風の二番目物といったやうな脚本を、どし／＼上演される必要がある」と進言された。

その意味で、これは「涙の四ツ橋」とは話が違ふけれど、壽三郎など、上方人の「やくざ」物をやつて見たらどうかと考へてゐる。この事は白井會長にも進言し、賛意を得てゐるから、來年は「上方やくざ」の新脚本を書いて見たいと思つてゐる。

序でながら、「涙の四ツ橋」について先年東京の川村花菱氏との間に、紛争を招いたが、第一篇の「涙の四ツ橋」は川村氏の原作を川村氏の諒解の下に私が上方風に脚色し、この「四ツ橋」の方は第二篇として私が創作したのだが、原作者には「四ツ辻」に續篇の意志がなかつたといふ所から、多少の行違ひもあつて非常に川村氏を怒らせてしまつた。今度は獨立した私の創作として、これを上演することに賛成されたいさうだから、川村氏にも感謝の意を表して、この稿を結ぶ事にしよう。



# 台 舞 上 誌

## ひらかな盛衰記

南座 畫の部

松

北は海老江長柄の地  
〱四方をきつと見渡せば、

〱東は川崎天満村

南は津むら三つが濱

〱西は源氏の陣所〱、皆

人ならぬ所なし、

扱は樋口を取巻しよな、何こさかしい。

〱さも有れいかにと飛んで

おり、

ト、松右衛門、松より

飛び降り。

女房ども〱。

ト、上手よりおよし刀

を持出て松右衛門に

渡す。

よし

モシこちの人、とゞさんは納戸の壁をこぼつてごつちへやら行かしやんしたわいなア。

松

ヤア、壁をこぼつてうぜたとは、ム、訴人にうぜたな、チエ、樋口程の武士が船玉の誓言に心奪はれ飼犬に手を喰れしかム、〱、

〱こぶしを握り無念の涙

折から向ふに聲あつて、

重

ヤア〱樋口の次郎兼光へ畠山庄司重忠今改めて見参〱。

松

何んと、

〱武威輝す高提灯、畠山の

庄司重忠、權四郎に案内

させ見えければ、娘はそ

れと見るよりも、

ト、此文句の内、始終

遠寄にて、向ふより

軍兵二人高張を持續

いて庄司重忠鎧素袍

のこしらへ跡より鎧

形りの四人ずつと跡

より權四郎、樋松を

背負ふ大勢の船頭續

く。

よし

權

よし

權

コレとゞさんうらめしい、訴人の恨か言ふな〱おれが訴人

せいでも松右衛門を樋口次郎とは梶原縁が能く御存じなされて富藏

九郎作にからめ取らそうとなされたちやないかそれ斗りぢやない四

方八方を取圍んで樋口の命は籠の鳥、なんぼ助ふと思ふても助から

ぬ、おれが畠山縁へ訴人したは樋松が事で、

サア其樋松が事を云ふて松右衛門

殿が腹を立て、

何の腹立てる事がある親子と云ふ石に繋がれて孫めが親と一所にあ

つち者になりおらうかと悲しさあ

れは樋口の子ではムりませぬ、死

だ前の入り婿のナ松右衛門が子で

な合點がいたるホンの親子でムら

ぬからは訴人致した替り孫が命を

助けなされて下されと願ふたれば

段々きこしめし分られ天下晴れて

孫めが命はヲ、慮外ながら此ぢい

が助けた夫に何ちや樋口が腹立た

ヤイおのれが子でもない主君でも

ない大事の大事の俺が孫を一所に

# 台 舞 上 誌

松

重

松

殺して侍いが立つかいやい其大きな眼にも祖父がくだく心の數々は見えざるまい、恨めしいとは吐すおのれがけつくらめしいわへ氣をせき上げてくもり聲、  
ト、權四郎よろしく  
あつて  
「ワ、よふ訴人下された有難し共過分とも言ぬ詞はいふ百倍嬉し涙にくれけるが、すつと立て重忠が傍近くさしよつて、樋口動するけしきなく、  
天晴御邊が梶原から刀の目釘の續かん程斬死なさんな易けれども栗津の軍妹巴が身の上迄志ありしと聞く情に双向ふ双はなし、腹十文字にかき切つて首の御邊に參らせん。  
「云はせもはです。  
やア死首とつて手柄にする重忠ならず逆も叶はぬと覺期あらば、イザ尋常に繩かゝられよ。  
やア運つきて腹切るは武士のなら

重

松

重

ひ繩かゝれとは此樋口に生恥かゝせん結構さな。  
愚かや樋口。  
ト、眺らへの大小入り  
合方、  
木曾殿の御内にて四天王の随一と呼ばれ亡君の仇を報ぜんとは頼母しし、大將義經の心をさつし重忠が繩かゝる。  
「つゝと寄て樋口が腕捻ち上ぐれば、ニツコと笑ふ  
關八洲に隠れなき勇力の重忠力づくには劣らぬ樋口、とられし此腕もぎはなすは安けれど智仁兼備の力には及ばぬ、兎も角も計はれよ。  
「め手の腕を押し廻せば、  
やアおるか、西大將の御仁政文武二つの力を以て傳はる此繩目樋口とつた。  
「かくるもかゝるも勇士と勇士仁義にからむ高小手手。  
コリヤ女樋口殿の血こそ分ぬ槌松とやらは大切な子でないか、それ

皆々

重

松

榎

松

重

榎

松

榎

松

榎

松

榎

松

榎

松

榎

松

榎

喰乞ひを  
「とありければおよしは泣々そばへより、  
コレふしばし假初にも親と云ひし此世の別れヨウ顔見せて、  
「とさしよすれば、  
コレ榎松よ、と云はずに喰乞ひを、  
樋口さらば、  
「誰か教へれど呼子鳥つがひ離るゝうき思ひ、  
餘所の千歳は知られども、此の身につらき有常無常。  
老はとゞまり、  
若きは行く。  
世は逆さまの  
逆鱗の松  
「朽ちぬ其名を福島に枝葉は今に残しける。  
ト、皆々よろしく居並び段切遠よせ。

雲衣紛上野初花

南座夜の部

宗

高木氏へよろしふ。

ト、宗俊敷臺より草履をはかうとする、此の時に、  
後にて、

大

御使僧暫らく、

ト、奥より以前の大膳出る。

宗

お止めありしそこ許は、拙者事は當家の重役北村大膳と申

宗

スリヤそこ許が聞及ぶ北村氏でムるよな。

大

シテ御使僧の御尊名はな仰せられ下されい。

宗

コワ改まりしそのお尋ね、拙者事は上野なる當御門主に仕ふまつる

北谷道海と申者。

スリヤそこ許が道海ごのとな。

以後はお見知り下されい。

アイヤ、只今お顔を見知るに及ばず、その以前より見知つて居るが

いつお手前にはお茶道を脱し召されて、御衣を纏ひ沙門の道へおは

入ありしぞ。

コワ異な事を申さるゝが、茶道を脱し沙門に入りし拙僧かつて覚え

ムらぬ。

おとぼけあるな宗俊どの、日頃お城の使をつとめる此大膳を見忘れ

られしか、お数寄屋坊主のその内

でも頭と呼べるゝ河内山なんて身

共が見忘れませうぞ。

イヤ、拙僧さやうな名前をば貴殿

に呼べるゝ覚えなし、他人の空似

と世上にはよく似た者もまゝムれば、人違をばし召さるゝな。

ヤア如何やうしらを切らるゝとも

逃れぬ證據は覚えある左りの高頬

の黒子

ヤア、

ト、ギツクリ思入、

大

なんと相違はゐるまい。

ト、きつふ云ふ。是にて

宗俊はまでと云ふこな

し、

宗

大膳には知つて居たか、ハハ……

いかにも使僧と偽はつたはお数寄

屋坊主の河内山宗俊だ。

それ何れも。

大

ハツ。

ト、近習身構へる、中間

は恠りして下手へ逃れて這入る。

宗

エ、ぎやう／＼しい静かにしろ、

かう云ふひようきん者に出られち

や仕方がねえ、何も彼も云つて聞

かせらアまあ聞いて呉れ。

ト、二重へ腰をかける、

是より琴の入りし合方

になり、

惡に強きは善にもと、世のたとひ

にも云ふ如く、親の歎きが不憫さ

に、娘の命を助ける爲、腹に巧み

のこんたんを、練堀小路に隠れな

き、お数寄屋坊主の宗俊が、天窓

の丸いな幸ひに、衣でしがを忍ケ



# 台 舞 上 詠

大 宗

岡、神の御末の一品親王、宮の使と偽つて、神風よりか御威光の、風を吹かして大膳にも、出雲守の上屋敷、へしかけた仕事の曰窓家中一統白壁と思ひの外にかへりがけ、邪覓な處へ北村大膳、腐れ薬をつけたら知らず、抜きさしならねえ高頬の墨子星をさゝれて見出されちやア、そつちで歸れと云はふとも、こつちで此のまゝ歸られえ、此玄關の表向き、俺に街りの名をつけて若年寄へ差出すか、但しは御使僧で無難で歸すか、二ツに一つの返事を聞にやア、只此の儘にやア歸られえ。

ト、きつと云ふ、大膳あざ笑ひ。

引かれ者の小唄とやら、出るまゝのその雑言、街りと知れし上からは、縛り上げて首打ち落止し、松江の手並を見せて呉れん。

イヤ、さうはならめえ、たとへ街りの罪あるとも、若年寄りの支配を受け、お城をつとめるお數寄屋坊主、御直參の河内山だ。高が國

大膳 宗

主の大名風情に裁譯を受ける謂れはねえ。それともお自由に此首が落されるなら落して見ろ。

さあそれは、

よもや首はとれめえがな。

ト、きつと云ふ、大膳是非なきこなし

大 宗

然らば街の次第を言上げ此まゝ上えへ差出して、おのれの首を落させくれん。

そりアそつちの了簡次第、街りと云つて差出せば、ごうせ命にかゝはる刑狀、此三寸の舌先きでおれがしやべつた事ならば、そこは持前、淨波璃の鏡にかけて身の上の知行高に疵がつかうぜ、それを承知であるならば、街りに落しておれを差出せ、

サそれは、

それとも無事に納めたくば、御使僧の道海でおれを歸すか、

サア、

それとも街りで差出すか。

サ、

兩人 サアくく

## ケネン ト号



萬人愛好の 優良車  
鋼產品中の完璧 是非御愛用を

市内特約店ニアリ

株式会社 大澤商會  
京都市三條通小橋西

研辰の討たれ

南座夜の部

辰 貴郎方は私をどうなさるのでござ

います

九 勝負をして打ち果すのだ。

辰 何故その様な事をなされます、そんな怖しい事を何故なされます……。

九 おのれを殺したいから、二年の間苦勞をしてゐたのだ。

才 汝を殺されば我等の國元へ歸れぬのだ。

辰 そんな事を仰つしやつたつて私はあなた方に何も悪い事をした覚えはふいません、それに、そんな怖ろしい事……。成る程あの時私が市郎右衛門様はいたしました事は悪い事かも知れません、併し私し

二人

だつて氣狂ぢやなし先方が何もなさらないものをあんな事をするわけはありません、あの時はつい分ひごい事をなさいました……：研やの職人などと私の事を犬侍茶坊主侍なんのかのとその上私の顔につばき迄はきかけ満座の中で恥をかゝされましたアノ事を見てゐた人々はみんな私の事を可愛相だと言つてくれました、もしあれがあなたの方であつたとしたらどうなさいますそのまゝ御我慢いますかそんな事はありませんまい、私のした事を決して無理とはおつしやるまい……：それに今更私を殺すそんなあなた……：それに市郎右衛門様と私の事はもうあれですんだので御座います。

辰

ト、辰次平身する、

イヤ……：何しろ暫くで御座いました。いつも乍ら御きげよう御目出度ふ御座いますア、今此の様に御目にかゝつて居りますと今更の様に思ひ出されますは二年前の事、

世見顔の年今

＝々役のと優俳演出＝

ほのほ 森

仁左衛門、梅幸、鴈治郎とつぎつぎに老名優を失つてゐるので、顔見世もだんだん回顧的氣分は薄らいで行く。今年は顔見世の代表者のやうな鴈治郎を失ひ、羽左衛門は参加しないが、去年來なかつた左團次が久々で顔を見せてくれる。幸四郎、梅玉、魁車も健在だ。あとは猿之助、壽三郎を始めとして健康そのもののやうな中堅と、美しい若手連だ。よし「顔見世」の莊重さを缺いても、その代りに潑刺さは味へるといふ譯だ。今後の顔見世は愈々絢爛に、愈々潑刺たる氣分を横溢させた——さういふ方針で行つて貰うやう

# 台 舞 上 誌

よく私にお金の御用を仰せつけ下さいまして平井様の若旦那私の件によく學問の御けいこをして下さいました、平井様の若旦那方、そのあなた方が私しを殺す……そんな……そんな……馬鹿……しい武士のあなたと町人の私とが勝負をするそんな……そんなまちがつた理屈はありません……黙れ以前の好みは好み、只今にてはその方は敵だ、我等の兄を殺せし敵だ敵討は武士の習ひだ。併し私は前にも申上た通りあなた方には悪い事をいたしたおぼへはふいません、何卒御勘辨……コリヤ辰次此場になつて未練申すなたとへごの様な事があらう共今更汝を助ける事はないのだ。時が延ると又面倒だかれこれ申すな、サア立て  
才  
サア立て、立ち上つて尋常の勝負いたせ。  
辰  
勝負まア御待ち下さいましなんの爲にそんな馬鹿……しい事をやるので御座います私はあなた方には

なんの御惧みは御座いません。まアなんとも申せ立たぬなら立たぬでよいツレ弟……ハア覺悟いたせ。  
才  
立ちます……立てと仰つしやるなら立ちますなんの爲に立つのかわかりませんが強て仰つしやるなら立ちます、なんだか私にはさつぱりわけがわかりません  
辰  
立つなら早くいたせ、  
才  
ハイ只今立ちます、只今立ちます。  
九  
サア早くいたせ、  
辰  
ハイ立ちます、立ちます、  
九  
ト、刀を突きつけられ仕方なしに立つ、  
辰  
サア立ちました、これでよろしふ  
九  
ふいませるか……サア立ちましたこれでよろしふいませるか、  
辰  
サア立つたらその刀を持って、  
九  
エ、刀、まアそんなとんでもない御二人様私はもうこれで澤山で御座りますそれでも御許し下さいまし、  
才  
おのれ又其様な一寸逃れを申すな

當事者にお願ひしたいと思つてゐる。處で今年の狂言である――。

先づ左團次から行かう――私はかねがね此優に十八番物の『毛拔』か『不動』を希望してゐるのだが、また綺堂氏物の高綱と聞いてガツカリした。併し作その物もいし、役柄が左團次の藝格にピッタリ嵌つてゐる。頼朝を罵倒し盡すあたり、野洲河原での馬子殺しの物語の活殺自在な臺詞廻しは、近年愈々洗練され、愈々味が加つて此エロキユーションだけでも素晴らしい。

『河内山』は半世話、半時代の物だから顔見世狂言として不當でもないが、まどもつと内容の良い外面の華やかな物がありそうに思はれる。今度は幸四郎、吉右衛門といふ河内山役者もあるが、柄から言つたら此優が一番適してゐる。

吉右衛門は『逆櫓』と『檀特山』が出し物だが、前者は失脚する勇士の悲壯さを見せるだけのものでは餘り佳いとは思はないが、見た眼は變化があ



# 台 舞 上 誌

辰

面倒な持つ事がいやなら持たなくともよい、サア覺悟いたせ、イヤ持ちます——ハイ只今持ちます——暫く御待ち下さいまし持てばよろしいので御座いませふ、持ちます——

ト、盡々鞘のまゝ刀を持つ才次郎はその鞘を手荒引く辰次の手に白刃が光る。

辰

ア、この刀で斬合をするので御座いますか、

辰

ト、辰次刀を投げ出し。九市郎様おはらじの紐が解けております結ばせて下さいまし、エ、いらぬ事をなんといふいやな奴だサア刀を持つんだ、

辰

ハイ——持ちます——、

ト、刀を持つ九市郎襟元を掴み、

九

刀を持つたら立つのだ、

ト、辰次を立たせる。

九

それでよし、その方も兄を討つた程の手並がある、サア用意よくばイザ、（と詰め寄る）

つて面白いし、權四郎といふ人間が實

に巧く書けてゐる。作の全體から言へ

ば『盛綱陣屋』の方が遙かに上だ。俗

にダンドクセンで通つてゐる『一ノ谷

の組討』は演出の上から考察すると非

常に興味の深いもので、私の好きな狂

言の一つである。吉右衛門の熊谷は少

しセンチの傾きがあるが、それだけ人

間味は充分現はれて涙を催させるに足

りる。併し今度期待してゐるのは『河

内山』の出雲守だ。我儘な疳癪な殿様

ぶりは發揮しても、若狹之助にならぬ

だけの用意はあるだらう。さういふ處

に私は期待を掛けてゐるのだ。

幸四郎は對面の五郎で正確な型を見

せてくれることと思ふ。『二人袴』は

猿之助が對手だけに勿論面白い、結構

なものに相違ない。『七ツ面』は初めて

拜見するが二代目團十郎の得意の物と

して有名なだけに多大の興味がある。

ことにして貰ひたい。

肝腎の土地ツ子の關西方は餘り振はないが、梅玉は『春日局』を出し、かなへ會としては『涙の四ツ橋』を出してゐる。前者は先年も見たと思ふが、梅玉物としては相應しい。後者は作としても芝居としても好評を得たもので御見物の涙をそそることは受合である。併しくども言ふやうだが顔見世狂言は成るべく明るい物ばかりを列べることに願ひたいのだ。

この外、三升の新篇にかゝる十八番の『押戻』の復活がある。あの單純な部分的なものを、誰がどうアレインデしたのか知らないが、これも拜見した上で文句を言ふのを樂みにしてゐる。鬼にも角にも、一年中の上りを取つて了ふといふ顔見世は、例によつて例の如く大入滿員を續けるのであらう。スピードアップの御時世に、朝の九時から夜の十一時過ぎまでブツ通す顔見世は、流石に京の誇りとする年中行事ではある——。

# 校學優俳と郎五菊 む望に等徒生

一同不第次一

新妻 莞

『菊五郎と俳優學校生徒等に望む』との課題である。この答は、なまなか舌足らぬ文句を並べるより、『役者論語』の中の『耳塵集上の巻』から、抜き書きした方が、意味がありさうである。以下――

一、山下京右衛門曰く、坂田藤十郎は天性の名人にして、三ヶ津心ある藝者のゆるしたる名人、今上手といはるゝ立役の中に、藤十郎に及ぶ藝者一人もあるべきとは思はれず、我も又及ばず、然れども天性の名人なるが故却つて師匠にはなるまじきやその故はたとへば木作りの名人が松にてもあれさまゝに枝をねちたはめ、見事に作りなしたる松と、又天性ふりよく見事に生えたる松の如し余の上手は下手をねちたはめ能藝に致したる上手なり、それ故今の上手は下手をねちたはめ能藝にする事を

覚え弟子に教ゆる事あり、その故に師匠とたのまるべし、又天性の名人は生れながらの名人なる故、我れねちたはめられたる事なければ、我れ又人をねちたはむる事を知らず、さる程に、師匠にはたのまれまじきなり

以上、これを菊五郎と俳優學校生徒にうつして、他山の石となるかならぬかそれを本誌の讀者諸子の御判断に御任せする、菊五郎たりとも差出口罷りならぬと心得べし。

長谷川 伸

六代目には六代目とその系統のみの公演と及び吉右衛門との合同公演とを希望する、これは松竹と六代目と吉右衛門に呼びかける言葉なり。

學校劇團と學生とはこの道を行くがよろしいといふ名案をまだ私はもつてをらす。



## 永田 龍雄

どうも現在のまゝでは物質的にも藝術的にも中途半端で、生徒達は寒々として居るやうである、六代目をめぐるブレーントラスト達が、もうすこし經營方面に舞台方面に活潑な仕事を六代目と生徒達に與えねばならぬと考へらるる。

## 高澤 初風

新國劇や會ての築地小劇場の俳優達にはそれ／＼の劇團の型が出来たと同じやうに菊五郎教導の生徒達にももうそろ／＼その學校型とも云ふべきものが見え始めて來た事はまでの公演を見ても判る、是れは避け難い事かも知

れないが、此劇團型に全部が捉はれて了はない前に校長先生は大に考慮してそれを救はなければならぬ、それならどうすればよいかと云ふ事になるが、それは校長や生徒達がさうならぬ事を絶へず念頭に置くだけでも助かる、特色のある劇團型の出来る事は賛成するが、その多くは悪い型に生徒達は陥り易い、殊に新劇ばかりを出して行くとその弊に陥り易い、だから在來の歌舞伎狂言や舞踊劇の類も中に挟んで是れからは大にやつて行く必要があると思ふ、それが又此新しい劇團の使命ではないかと思ふのである。

## 本山 荻舟

職業俳優になつてしまふと、眞剣味の持續がむつかしからうし、さりとて職業になり得ぬとしたら、生活上の問題であらうし、この點をどう調和し得るか、いつも懸念してゐる。菊五郎及び劇團員に對する注文よりも、一般



觀客がもつとこの劇團を支援擁護し、更に開演の機會を、多からしめてやる事ができるならと、先づその方を祈る。

## 水谷 幻花

菊五郎校長自らの口から聞いたのだが、『あれは巧い、あつしにやとても出来ない』と、激賞されてる生徒がある。

生徒諸君『そりや俺だな』と一生懸命に勉強すること。忘れても小鼻をいからせずに。

校長に望む。血をわけた子供同様に可愛がるべし、叱るべし。



## 高安 月郊

時代世話も同じく、外面の寫實の底を破つて、魂の眞實を内からあらはす様。

舞踊劇では形の美を心の繪模様とする様。

生徒達は古典より多く新作に努力する様。

## 尾崎 久彌

俳優學校の内容を詳しくは存ぜねども、いづれ名優(次代又は次々代)のを作るにありと存上候。さすれば從來の如き「閨」の弊を破り、「實力」本位、斯界に進出するものならんと、校



長菊五郎氏の意圖も、之に有之と存候。此の趣旨なれば、誠に大賛成、慥かに斯界に對する先覺的事業、又斯界當今の狀に徴して、最も妥當適切なるものと存候。

生徒諸君も此の意を體して切に勉強あり度、又校長としても此の意を體して努力開拓あり度、更には興行元としても松竹氏の格別なる應援有之度、至望至囑。

## 金子 洋文

俳優學校の生徒を役者に育てゝはいないやうに思ひます、歌舞伎劇に専心する人は別ですが、歌舞伎を學んでも、それを身につけては絶體にいけないこと、とくに、女優は、女優者になつてはだめです。

私の『お父さんの唄』をやつた二人の女優は前途好望です。

## 中山 楠雄

特に俳優學校生徒諸君に望むところはありませんが、俳優としてどこまでも自分自身を生かすことが必要だらうと思ひます、拜見する處今から菊五郎氏の型にはまつては六代目には絶對になれません。

名人藝は模倣から決して生れるものでないのをよくよく心がけて頂きたいことが希望と言へば希望です。

菊五郎と俳優學校  
生徒等は目下  
歌舞伎座出演中



# 菊五郎來る

## 山口廣一

▽……あわたましい師走月の大阪で菊五郎が見られるなどは全く豫期せぬ賑ひである、芝居ファンなら誰も彼もが棚ボタ式に喜んでゐることだらう、六代目が旅先きで南座の顔見世聯合軍と競演するなどにも角にも年代記ものである、今年は例年の帝展が京都で開かれないので、その埋め合せに大阪へ菊五郎がやつて来るんだと穿つたことをいふ人がある、帝



展なみの藝術使節扱ひにされてゐるところ、さすがに菊五郎である▽……劇壇の裏の裏をまはる樂屋内の事情とか空氣については到底われら素人の覗ひ及ぶところでないが人の噂によると現在の菊五郎はひどく評判がよくないさうだ、左團次は絶対に一座せぬと明言する、吉右衛門もどうやら氣が進まぬらしい、内輪の羽左とさへごてついてゐるといわれる、畢竟するところ一人よがりで傲慢で人を人とは思はぬ、これが菊五郎の欠點だ、當然肩を組み手を握り合つて進むべきはずの同僚から菊五郎一人だけが敬遠されてゐる原因だと消息通は傳へる、この岡目八目の當否は第二としてもとに角六代目が性格の強靱な圭角のあり過ぎる人だとは一應想像してもよささうだ、これが往々にして友達附き合ひを悪くしたり周囲から嫌な

奴だと毛嫌ひされたりする、だがこれも考へ方次第で、どんな社會にもかうした行き方の人は一人や二人ゐるものだ、それどころか場合によつては是非とも必要なんだ、私達第三者から見た菊五郎はその自信の強さに或る頼母しさを感じたり毀譽褒貶を意に介せない點に一種の痛快味を覺えたりする、とに角、菊五郎は凡人型でない、英雄型だ、血液はO型？

▽……かうした菊五郎でありながら時には妙に人情的な一面をひよい／＼見せるのがご愛嬌である、雀右衛門の遺児章景に同情して引取つたり、幸四郎の息子達の面倒を見てやつたり、或は末輩の竹三郎を女房役に引上げてその披露狂言に自ら一役買つて出たりする、舞台の上や稽古場ではむつかしい師匠嚴びしい師匠かも知れぬが、後進の面倒を見てやる點で若手俳優から見た菊五郎はいゝ伯父さんであり、物のわかつた兄さんであるに違ひない、今度大阪へ初めて連れて來る日本

俳優學校を創設して自らその校長に納まり若い次ぎの時代の人達を養成してゐるのもこの菊五郎の後輩に對する温情主義から出たものだと解し得る、強い先輩や同輩には至極受けの悪い菊五郎だが弱い後輩にはこれほど親切な後援になつてやる、この矛盾にも菊五郎の人となりがよく出てゐると思ふ、同じ天邪鬼でも菊五郎の天邪鬼には好感が持てる、値打ちがある

▽……どうも少し當て推量ばかりの菊五郎月旦になり過ぎたやうだ、本紙の編輯者から頂いた課題は今度の菊五郎の演しものについてだつたが、日本俳優學校の公演は噂に聞いてゐても私は今度が全くの初見參で何も中上げる話題を持ち合せてない、といつて校長菊五郎の踊る『棒しばり』や『道成寺』を今更ら云々しては却つておかしい、絶品とか神品とか最上級の評價が既に一般に通用するほど折紙つきのものだからだ、然も私はその最上級の所作よりも今度では宇野信夫氏の『巷談宵宮雨』に限りなく期待をかけてゐる▽……この芝居は今夏東京での初演から非常に好評だつた、本人菊五郎も最近の會心作だと自ら許してゐるさうだ、作者の宇野氏も新進とはいひ乍ら既にその作品は吉右衛門、左團次らの大家級によつて上演を見てゐる、非常に個性の明確な作風で、吉右衛門の演じた『ひと夜』にしても今度の『巷談宵宮雨』にしても抒情風の詩味を豊かに印象させながら裏側の陰鬱な情景とそこに盡めく敗慘



の人達の無智や不幸や罪惡をジツと凝視してゐるといつた自然派的な作劇態度を示してゐる、特に『巷談宵宮雨』は怪談劇で、その手法が如何にも新しい昭和の鶴屋南北といった感じだ、初演の時の六代目の破戒坊主龍達の新演出も非常に問題になつてゐた、私はいまその巧緻な舞臺をあゝもあらうかこうもあら



新劇壇新春號  
新劇壇新春號  
新劇壇新春號

●各書店で發賣●  
●定價四十錢●

うかと想像しながら獨り密かに舌甜めづりしてゐる。  
▽……私は先々月上京した、復活後の中車の鬼一と左團次の『地獄變』が見たかつたからだ、だが結局は目當てにして行つたこの二つにはさして感銘せず却つて豫期せなかつた『源太時雨』における菊九郎の勘太にすつかり參らされて歸つて來た、どうも近ごろの私は菊五郎の至藝に少し憑かれてゐるやうだ。

——(を は り)——



# と役房女の私 轉變の團劇

—(3)—

男 文 築 都

大阪道頓堀竹田の芝居

錢が安うておもしろい

この俚謡めいたものは勿論芝居道から宣傳されたものでなく、市人が道頓堀讚美的に口から口へ傳へられたものだが天明寛永の古から、それ程道頓堀は芝居で著名である。尼野の辨天座、淺野の朝日座、高木の角座、三榮の中座、秋山の浪花座、とそれぞれ座主を異に櫛立した道頓堀の五つの櫓、その小屋が全部松竹の所有に歸したといふのだから、流石に生馬の目を抜くと云ふ大阪人も眼を瞠つたに違ひない。

一世の名優鴈治郎を盟主と仰ぐ關西大歌舞伎、山長劇、新國劇、曾我廼家五郎劇、吾が成美團等が、歐洲戰亂後の好況の波に乗つて底知れぬ好成績が、預つて力ある事と思はれる。

社長はこれを祝福して「お庇蔭まで道頓堀五軒の小屋が悉く松竹の所有になりました」と謝辭を述べ、各劇團へ紀念メダルを贈つた、就中各劇團の最高幹部級に贈られたものは、ダイヤ入りの實に豪華なものだった。

成功と失敗は紙一重と云ふ言葉がある。さしも誇つた新派も、山長の連鎖劇が凋落の導火線となり、自分と木下八

百子の脱退も少なからず劇界を動搖せしめたらしかつた。世相は急變して、黄金飽滿時代から不況時代へと推移してゆく。やがては拾収すべからざる時代が到來する事は火を見るより明らかだ、新派には、あまり關心を持たぬ社長自らが陣頭に立ち、多田營業部長を奔らしめて、成美團、山長を併合せしめ關西新派の名の下に浪花座にて第一回公演の蓋を開けた。

だが當時山長は腦膜炎に犯され台詞を暗記する事すら至難の状態だつた。爲に興行は失敗に歸し二の矢を放つ事さへ出来ない程だつた。それがそもゝ自分正劇座から復歸せしめ、都築、河原一派を興す原因となつた。

大正十年一月元旦、初聲を擧げたのが京都京都座、これが當つて三月九日迄續演、狂言は曉の勝利。女の力。雲の別れ路。(巴里の一夜 人來鳥)。光子。等、續いて大阪辨天座、神戸中央劇場(松竹劇場)と巡演、到る處好評を博して連日満員の盛況を博した。

これに反して東都の新派界は實に悲慘で、さんぐの不振は花柳、梅島、藤村と錚々たる若手が關西落となつた。新進新派、或は舊派と合流して豊田屋花柳の新劇團とか、手を代へ品を代へて挽回に勉めたもんだ。

此の劇界動亂時代に聰明なる澤正は例の四人組(中田、伊川、田中、小川)の脱退を契機に松竹を離れて獨立し、大衆誤樂劇より大衆藝術劇へと致々たる努力を重ね、好脚本には千金を惜まず、それが報いられて見事金銭を射た。此時代の努力が彼の歿後、現在尙人氣を保つ一つの原因を形造つてゐると思はれる。

山長、河原の話に移るが、前者は全盛期に貯へた私財を抛つて場末の小屋に立籠り多大の損害を重ねて黄泉の客となり、後者は良夫たる自分を捨て、當時松竹經營に移つた樂天地に走り、莫大なる給料に甘へて蓄財に餘念なかつたが束の間にて、第三次成美團組織に加盟した。角座を根城として小織、福井、木下(吉)、英、都築と言ふ一座、狂言は己ヶ罪。生きぬ仲。月魄。相夫憐。等所謂新派古典劇を上演して往年の隆盛期を髣髴たらしめた。

就中、呪はれの日(大平野虹作)を上演した通常夏枯時であるべき八月には奇蹟的の超記録を作つたが、又、一時分離する事となつた。それは東都から喜多村一派が來り、それに小織、福井が加盟して久々の新派大合同を開演する爲だつたが、自分は深澤恒造を客員として都築河原一派で九月一日初日で京都座で開演する事となつた。狂言は例の



當り狂言「呪はれの日」。而るに「呪はれ日」が現實の呪はれの日となつた。時、大正十二年九月一日、あの關東大震災の當日だつたからである。

開幕前の正午近く。満員の盛況に良い氣持の自分が樂屋風呂から上つて部屋へ歸つてくる。やがて……。遠雷に似た音。

「オヤ？」間髪を容れず、部屋が船室の如く震動するのだ化粧容器や牡丹刷毛が生物のやうに躍り出す、地震たと直感すると神經が針のやうに鋭くなつてくる。女優の叫聲、聲音、物の倒れる音、等が連れ合つて耳朶を叩く。

こんな場合は誰でも同じ事と思ひますが、神經が過敏に働きます。若し大地震とすれば、立錐の餘地なき大觀衆は——家族の安否——座員の消息。と一度に頭の中で渦巻き始めて、手近の女房役河原市松の部屋へ安否を氣付かつて飛び込んで行きます。

「河原君、大丈夫かい、随分激しいね、震源地は何處だらう——」

我々を脅かした強震も、通り魔のやうに去つて、やがて平穩に復した。

……一刻の後。

「君はあの地震の眞最中先づ一番先に浮んだのは何だつたい。」と自分が河原に感想談を聴く。

「矢ッ張り子供だナア。——搖れ始めた時、すぐ子供達の姿が想ひ出されたね。」

愛妻を失つた直後の河原が慈しみの三人の愛兒を想ひ浮べるのは當然だらう。あの嬌艶な舞台の母、河原市松君は家庭でも良き父であり母であつたのである。

「君は先づ最初頭の中で閃めいたものは何だね。」と今度は河原が僕に問ふ。

「そうだね——えゝ、そうだね、獨りで死ぬのが嫌だナアと——アハハハ……。」（未完）

——十、十一、二十二日——

次輯新春號にも引續いて都築文男氏が、執筆されます。御期待を乞ふ！

# 顔見世から

# 顔見世まで

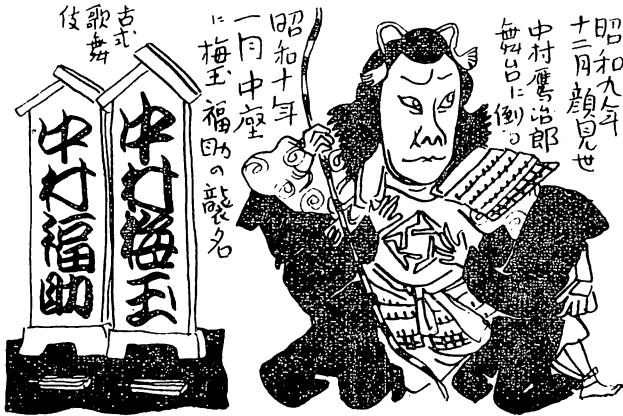
# 西尾福三郎

顔見世にイ菱が見えぬさむさ哉。そんな句の一つも詠んでみたくなる今年の顔見世。早いものであれからもう一年経つてしまつた。慌しい年の瀬に入人事勿忙の感が深い。所で極月の恒例とあつて今年一年間の上方劇場棚下しをする事になつた。夜眼遠眼の憎まれ口を毎月かき立てたまだその上に御念の入つたお淺ひの二の膳で些か胸に悶えるが、故きを温ねて新しきを知るよすがにもと、昭和十年度の埃を叩いて先づ去年の顔見世から。

勾当内侍、車曳き、俊寛、助六、不破、鏡山、鎌三、勸進帳、辨天小僧と

劇壇漫畫 一年史

## ●妹脊平三・富田英三・秋田收一・大槻たもつ●

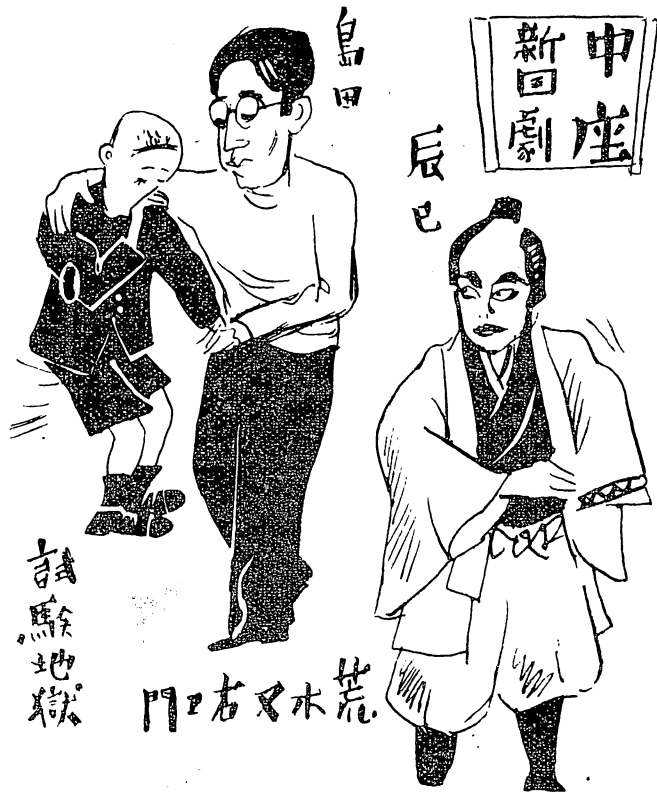


竝べた中で、何と云つても俊寛が一番  
實があつた。御本人は顔見世の豪華舞  
台にあんな乞食芝居はと二の足踏んで  
ゐた所があけてみるとこれが一等受け  
てゐたのだから皮肉だ。鴈治郎名残り  
の舞台鎌三は我童代役でこれもつきせ  
ぬ思ひの種である。その他では濱松屋  
の純東京方許りのスツキリした印象が  
忘れられない。この興行を名残りとし  
て點鬼簿に乗つた人に鴈治郎、龜藏、  
伊十郎がある事も忘れられない。

明けて今年の春芝居は先づ中座の水  
入らずの上方歌舞伎。お晝の若手奨勵  
劇では霞仙、成太郎の時雨炬燵が佳作  
だつた。新梅玉と新福助の石田の局の  
絢爛な舞台と英國孝子傳の變つた味が

## 關西劇壇 一年の回顧

### ●劇壇漫畫一年史●





思ひ出に残る。歌舞伎座では東京大新派の井上花柳の明路暗路がよかつた。

文樂の菅原の通しも珍しかつた。

二月南座に菊五郎がきた。御殿の忠

信、太刀盗人、野崎、文七元結と何れも結構な物揃ひ、中でお光の新演出が色々の意味で問題になつた。歌舞伎座

は吉右衛門と幸四郎に梅玉宗十郎で、問題は吉の清正と吉幸宗の双蝶々角力場であつた。中座に家庭劇浪花座に前

進座。後者の木曾路の鴉で鬚右衛門がスツキリした所を見せた。この月の一

日鷹治郎遂に蓮花座の白玉樓台に旅立つ。三月はその追悼芝居を思ひ出の中

座で、遺子三人を中心に忠八、太十、

すしや等、お晝には若手の勉強芝居で

新福助の河與があり、延太郎が延三郎

の名を襲つた。文樂では新淨瑠璃の修

善寺物語が眼新しかつた。歌舞伎座に

五郎神戸松竹劇場に左團次がきて何れ

劇壇漫畫一年史

4 月



12月-3月

4月-6月

7月-9月

10月-12月

妹脊平三氏

富田英三氏

秋田收一氏

大槻たもつ氏

・擔當・

5 月

大劇

エノケン 一座



西公演

中座

五代目菊五郎 追善



五年振リ  
で十五  
と天外  
加合作  
脚本

も手狎れた物を演じてゐた。

四月は踊り月、歌舞伎座のあしべ踊  
中座は新國劇で荒木又右衛門が評判だ  
つた。角座の關西新派は一月以來ずつ  
と居座りのロングランデこれ又押す  
なくの景氣である。五月は歌舞伎座  
に五代目菊五郎追善劇、土蜘蛛、禿坊主と  
六代目の所作物に絶讃が集まり、我童  
の三千歳が羽左とのコンビの初手習と  
して話題に上る。文樂は津の陣屋、土  
佐の酒屋、古靱の柳、外に宿屋阿古屋  
等やづくしでやつてゐた。浪花座の前  
進座は町の風景で特色を發揮し、南座  
へは東京新派が二人妻、自活する女を  
もつてきた。六月は鴈治郎追悼劇を南  
座へそして東京新派を歌舞伎座へ。後  
者では稽古扇がよかつた。浪花座では  
間に合せのつもりで明けた若手の忠臣  
藏が大當りで一同大喜び。これに氣を  
強くして七月は四谷と權三助十で又大

満洲

羽左五郎  
我立重  
渡満

IN MARU

大劇へターキー来る、ファン熱狂に感  
激の餘り舞臺に卒倒す。

苗希  
だ

6 月

7 月

當り。この月歌舞伎座は水谷、梅島、

壽三郎で、西鶴五人女がよかつた。神戸松竹劇場では菊五郎が堀川、船辨慶暗闇の辻松等で人氣を煽つた。八月は昨夏以來の連續物黃門漫遊記が中座で歌舞伎座は曾我廼家、南座は連月の根城角座から引越しの關西新派、これが中旬に過つて出火騒ぎを惹起し、危ふく大事に到る所を漸く免れた。

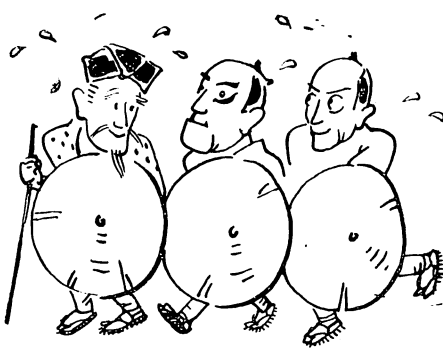
九月南座に新國劇、霧笛、彌太ツベ等これを十月中座へ持つて行つて何れも好評、浪花座は青年劇三の替りで右團次の五右衛門、扇雀の椀久等、俳優も見物もこゝらで一息と云つた形でやゝ鼻を打つた氣味だ。歌舞伎座は病休の魁車以外の關西歌舞伎に猿之助、松蔭等で近八、お夏狂亂、勸進帳、春琴抄、どす試合等、俄然猿之助の辨慶が問題になつて成績は上乘、然し春琴抄の味を舞台で生かす事は一寸無理だった。神戸へは吉右衛門と幸四郎で勸

劇壇漫畫一年史



「アレ、親方ワラジを脱ぎなさいよ！」  
浪花座・右團治忠臣藏三役早替り

7月



中座に白井會長案の「蜻蛉三人旅」上演  
梅玉、魁車、延若のトリオ。

8月



進帳を張り合ひに、大藏卿、太十、松浦の太鼓等をもつてきた。

十月は歌舞伎座に東京新派、二人妻婦系圖、仇吉米八、十二番の聖歌等、浪花座は前進座で悲戀の白拍子、清水治郎長。文樂は土佐病休で伊賀越、太十合邦等、何れも前號でかいた通り。

十一月中座に梅玉が抜けた後の關西歌舞伎、今度は思ひきつた新作許りの盛り澤山であつた。結果は案外よくなかつたらしい。

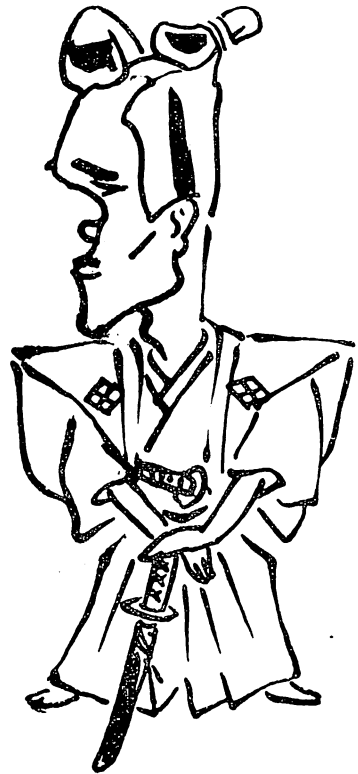
比較的問題になつた地獄變にしてからが、元來舞台向きには何うかと思はれる素材で、芥川氏の物で芝居になつて原作の味が多少でも出てゐると思へたのはお富の貞操の方が上だつたやうに思ふ。春琴抄でも、地獄變でも文藝物の名作をそのまゝ舞台化する芝居としては一種の邪道である。忠實な脚色化なら知らぬ事、ちよつぱり鰻香を

→ 8 月

八角角座ハナシ家芝居に漫歳連も加入、エンタツの颯爽たる勝頼さま！

神戸（幸四郎）と大阪（猿之助）にペンケイの鉢合せ。

9 月

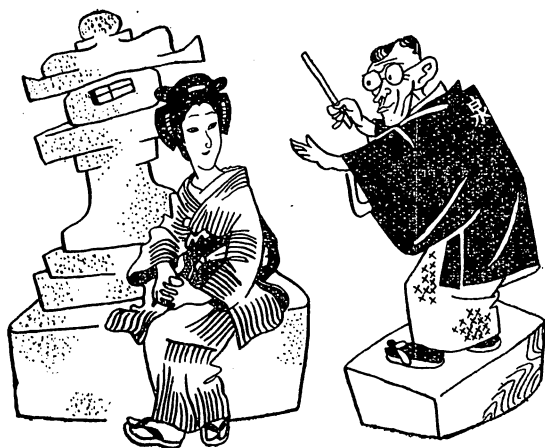


嘆ぐ程度のやり方は何うかと思ふ。それに一番目のお加代も明るい筈の芝居が何故か暗い。地獄變は無論、尼庄も半分は暗い。かう暗い芝居許りが続くのも一考すべき點だ。必ずしも新作を並べる事が悪いのではない。要はその選擇の標準により一層の考慮を望んでおきたい。南座と松竹劇場とは前後して東京青年歌舞伎に大阪方が参加して菅原、生きてゐる小平次、時雨の炬燵、白浪五人男等がかゝつた。案じられてゐたこの興行は案外な好評だった。大頭株の芝居が時に著しい不成績を示す事があつても、今年の夏場の青年劇と云ひ、これと云ひ、中所俳優の比較的未熟と思はれる人達の芝居が割合に歡迎されるのは、強ち料金が安いからだけではない。現にこの一座の生きてゐる小平次は私は今年中を通じて當地でみた新作物の中で最高の出来と

劇壇漫畫一年史

十月

たむけ



大阪歌舞伎座にくりひろげられた婦系圖の一巻、「花柳のお蔭か、お蔭の花柳か」と。鏡花老ならぬ漫畫子が振返りみる神無月

十一月

たむけ



映畫女優はモチのこと美容院から喫茶店、舞踊學校を卒業して、はる／＼浪花の浪花座に栗島すみ子の霜月興行

思つてゐる位だ。勿論作品もよいが、俳優の熱も認めてやらねばならない。與えられた範圍内で演るしか方法のない作品と、自分から飛ついてゝも演りたい作品と、この限界を考へて新作品を選定すべきであらう。

以上各月毎に述べた芝居の外、家庭劇と關西新派は月二回の新狂言を殆んど矢繼逸やに取かえ差かえて堅實な地歩をかためつゝ、今では押しも壓さもしな關西の二大寵兒になつてしまつた。そろ／＼次に來るであらう懺怠期に處する用意がなくてはならない。

さて何彼と勝手な繰り言を並べてきたが、これで今年の文句納め、來年からは又々筆硯を新にして出直す事としやう。妄言多罪。

×  
・ × ×  
×  
×



顔見世  
たもつ屋

「オヤツたしかに有つたはづのホクロが紛失」。河内山「へッ、當世流行のつけボクロでネ」。と乙にすまして京の顔見世。





## をこがましい

### 中村吉右衛門

見ていたゞきたいなど、少しおこがましい。故人名優の残された型を研究して演じて居りますので「是でいゝ、見ていたゞきたい」と思つた事は一度もありません。今日もいけなかつた、やり直して見よう、いつも初日の心持で私は舞台を勤めてゐます。

台詞の方は作者『ひらがな盛衰記』の文耕堂『一谷嫩軍記』の並木宗輔がそれ／＼一句／＼に苦心をしたのでせうからなるべくそれを大切に言つてゐます。

大昔から色々の役者が「一

の谷』の熊谷をしてゐますが最もよかつたのは四代目の市川團十郎で後世傳つた型は大抵四代目が残した型だと父の歌六から聞きました。大阪では三代目の中村歌右衛門（梅玉）が熊谷を得意にして文化十年に西澤一鳳が傳奇作書の中に熊谷を評して『小兵ながら手だれの芝翫なれば故人の仕來りと違ひ、新しき無量の思入れを加へたりければ、二の口須磨の浦組討の場合は古今にあるまじと評よかりき』と書いてあります。

## 青年歌舞伎斷想

十一月の南座

### 大橋孝一郎

僕が青年歌舞伎を見て第一に親しみが持てたことは、青年歌舞伎の人々の年齢が、さして僕とは大差のないことであつた。このことは將來ズツ僕が歌舞伎を愛好して行くことと云ふことは即ち、此の人々の舞台を引續いて愛好して行くことと云ふことであり、此の人々の舞台藝と共に歳月を暮して行く譯でもあるとの意が強く頭に來たのであつた。

團菊、右が世を去つても後には立派な後繼者が現れた様に、現存する老優や巨頭の時代が去つても、次ぎの時代には屹度此の若い人々が良き後繼者となつて活躍して呉れるだらうことを自づと考へさせられる舞台だつた。その意味で僕には親しみが持てたのである。





## 台詞と演技

中村 魁 車

聞いて戴きたい私の台詞――

逆櫓のお筆に扮します。和

子は殺され主君を取戻しに

来る纏綿たる苦哀の台詞

見て戴きたい私の演技――

四ッ橋で藝者条次に扮し大



## 對面のこころ

松本 幸 四 郎

對面の五郎を見て戴き度いと存じます。斯う見得を切つて申しても、決して自慢を申

すのではなく、七代目團十郎の型を踏襲した師九代目團十郎の演出を、見聞し、教示を

例へば端的な例の引き様だが、その善悪は扱て置いて、我當は仁左衛門以外に何處やら六代目を感じさせるし、勘彌は先代以外に羽左に髣髴たるものがあるし、扇雀は云はすもがな鴈治郎だし……兎にも角にも僕には興味ある觀物だつたのであつた。

我當は松王では型物のシツカリとした手の入れやうと、腹のあるところを見せ、而も大きな動きに將來の型物役者を約束させる一方、生きてゐる小平次では六代目張りの世話物の味を出して器用な人と驚嘆させた。

勘彌は十六ミリの羽左と云はれるだけあつて、辨天娘で揚幕から現れたところなぞ「タチバナヤ！」と思はす口から飛び出しそうになる。將來の代表的な江戸ッ兒役者となりそう。この次の來演には是非共「お祭佐七」でもお願いしたい。

扇雀は南郷が一等良かつたのは一寸皮肉だ。扇雀氏このところを熟考されて今後の新生面を開拓すべきではないだらうか。その顔にその物腰恰好に、何と鴈治郎と生寫しであることよ！

成太郎のおさんは良い、殊に小柄な人なので、小柄な扇雀の女房役には好適の人である。女形に乏しい今日大切な

うけた型を、大過なきやうに  
演じ度いと心掛けてをりま  
す。

朝比奈の呼出しに、揚幕で  
『畏つて候』と答へるをきつ  
かけに、下座の對面三重とい  
ふ三味線にかゝり、兄弟の出  
になります。これに並び大名  
は『アリヤ、コリヤ』と化粧  
聲をかけます。五郎と十郎は  
花道で入れ代ることなどよう  
しくあつて、對面三重一杯に  
七三で極ります。この見得に  
ツケを入れ、大名は化粧聲を  
『デツケエ』とあげます。此  
對面三重と身體のきまりとツ  
ケ及び化粧聲と四方一度に極  
るやうに運ぶ所に、この花道  
の出の急所があります。

台詞のかゝりには秘傳があり  
ます。鶯の鳴合せに『ホウ、  
ホウ』と二度に引いて『ホケ  
キヨ』と三段に轉るのを、日  
月星の三光と稱して珍重する  
さうで、『今日は如何なる』  
の間の抑揚を、この優秀な鶯  
の鳴聲に象るのだと聞いてを  
ります。即ち『今日』が最初の  
『ホウ』、『は』が二度目の  
『ホウ』と引くの當り、  
『如何なる』に『ホケキヨ』  
を利かせるのです。

十郎の盃が濟んで、五郎の  
『合點だ』で十郎と入れ替り  
肌ぬぎになり見得、これへツ  
ケの代りともいふべき、大太  
鼓の第一のドランを入れて三  
保神樂といふ鳴物になり『今  
日は如何なる吉日にて日頃』  
と第二のドランを入れ、あと  
きまりきまりにドランを打込  
んで、セリフを云ひながら盃

人であることを思はせる。炬燵の後半松庭の小春とのやり  
とりになつてからは、松庭が大きなので、扇雀との同舞台は  
一寸考へさせられた。

松庭は形のいゝ人なので徳だし段々この人も宗十郎らし  
くなつて来る。形はいゝし、色氣はあるのだが惜むらくは  
容貌に少し難がある。とは申せ將來の立女形らしい風格の  
あるところ流石名門だけの値打はあらう。

鶴之助のおちかは打つてつけの役柄だ。あの傳法肌の淫  
靡な性根をファンダンに巻きちらしてゾクゾクさせるところ  
此の人の當り役に數へていゝと思ふ。濱松屋では蔦の者に  
扮して六代目そつくりの仕草と容姿とで、アツと云はせる  
なぞ、此の人の印象は中々深いものがあつたのである。

扱、各優各評はそれ位にして、この青年歌舞伎の來演は  
興行的にも大功成だつたらしいが、それよりも、關西の劇  
壇に一つの新鮮な話題を作り、好劇家に好印象を烙印した  
巧蹟を大いに認めねばならぬだらう。この成功を契機と  
して度々の來演を切望したい。そしてもつと若いファンの  
醸成に務めて將來の歌舞伎王國の牙城を築き上げて頂きた  
いと思ふのである。

——十一月二〇日——

の三寶の方へじりじりと寄つて行きますが、この第二のドロンも、普通は『今日は』の後へドロンと入れることになつてゐるのですが、七代目の型、即ち鶯の心持で行く場合には、その囀りの途中にドロンを入れることを嫌つて、自然その處を變へ、『日頃』のあとへ持つて行くことになりました。

さて斯うは申しますものゝ私如き老鶯、果して日月星の三光を鳴き得ませうか。うまく行きましたらお慰みと申上げたい所です。呵々。

次號は

新春特別號

三十日發賣

！を讀購御め極年堀頓道  
すまゐごで錢十三圓三か僅

！いさ下み込申御宛部輯編

劑菌殺中口

錠口生衛

ルー大カ

部品藥堂筒井藤安 會株 舖本  
社式

◆編輯後記 村上 勝◆

※吉例南座の顔見世は一日より豪華絢爛の舞台を展げてゐる。

興趣とりぐの演し物に、東西名優の競演これこそ將に劇壇の盛典であらう。

※茲に顔見世特轉號をおくり出すことの出来たのも、讀者諸氏の變らぬ御聲援によるものであり、玉稿を寄せられる諸先生の御支持と厚く感謝する次第です。

※本誌もこれで昭和十年度劇界決算報告書の役目を果たすと云へます。目出度くゴール

・インしたか否かは、讀者諸氏に御批判を仰ぎたい。

※ピツチをあげて一日も早く皆さまのもとに編輯、寫眞、校正、廣告と、すべてを運

んだのであるが、どうしても初日に間に合はなかつた。次轉正月號よりは更にスピード・アップして、御期待に添ふつもりである。

※京の顔見世と共に賑やかな師走道頓堀は、中座が家庭劇、角座が、鈴木傳明、武林文子等浪花座はまんざいの夕を終ると、早川雪洲等の公演がある。

※歌舞伎座は菊五郎に俳優學校の生徒達が出演して好劇家に話題を投げかけてゐる。

※終りに、岡本、高安兩先生はじめ、本誌に毎々御執筆下さる諸先生に、深くお禮を申し上げます。

※では、昭和十年のお別れでございます。

新春よりの本誌により一層御支援の程お願ひ申上げます。

昭和十年十二月一日發行

月刊『道頓堀』第百一十一年  
雜誌『道頓堀』第百一十一號

◇誌代は前金でお拂ひを願ひます。  
◇郵券代用は一割増にて御注文を願ひます。

◇御相談の上廣告掲載の需に應じます。

廣告取扱所

大阪電報通信社

廣告の御用は電通または當編輯部廣告係へ御申越下さい。  
大阪府北區中之島二丁目

本號に限り

一部 金參拾五錢 (郵錢五厘) (稅)

昭和十年十二月一日印刷

昭和十年十二月一日發行

大阪府南區久左衛門町八番地

發行所 松竹興業株式會社大阪支店

共同編輯 山本 上江 眞鏡 也

印刷所 道頓堀社印刷部

大阪府南區久左衛門町八番地

松竹興行株式會社大阪支店

發行所 道頓堀編輯部



あぶら取紙始礎 辻占添附

# スキナあぶら取紙

姉妹品

スキナ紙白粉  
スキナ石鹼

專賣特許 審用新案

## スキナ御代粧紙

(あぶら取兼紙白粉)

各品共御愛用を乞ふ!

標商録登



發賣元 大阪 朝日堂株式會社

本舖 大阪 中田スキナ屋謹製





# 固形浅田飴

冬の外出には  
咽喉を護れ！

皆さんの旅行、観劇  
講演會、音樂會  
事務など人混中には  
咽喉を保護し呼吸器  
病を豫防する固形  
浅田飴が先づ第一

全國各藥店にあり



本舖 東京 堀内伊太郎 大阪

昭和十二年十月廿五日 第三種郵便物認可  
昭和十一年十一月十一日 郵便行(毎月一回)  
昭和十一年十二月十一日 郵便行(毎月一回)  
昭和十一年十二月十一日 郵便行(毎月一回)

「道頓堀」

第百十一輯 第十年 十二月號

一部 金參拾五錢